

令和6年度 社会福祉法人 ル・プリ 事業活動報告

I 法人本部

令和6年度は、3年に1回実施される介護保険の報酬改定、障碍部門の報酬改定や働き方改革による就業規則の改正、最低賃金の大幅な引き上げに伴う給与規程の改正等、法人全体の実質的な手続きの主導を行い、より効率的な法人運営と各施設との連携の強化に努めてきました。また、現場における支援の質を高めるべく、アンガーマネジメント研修を全職員に実施しました。

再編した業務部門内の情報を共有するとともに現場レベルでの情報共有への取り組みをサポートし、その基盤ともなるスケジュール管理システムの法人全職員への拡充を行いました。電子決裁システムも各施設では始めております。

1 法人運営

法人運営の要である理事会・評議員会及び監査（監事、会計監査）については、前年度の決算から次年度の予算編成まで次のとおり開催をしました。

期 日	理 事 会	評 議 員 会	監事、会計監査
令和6年4月15日～ 17日			・会計監査令和5年度期中（後期）監査
令和6年5月11日～ 15日			・会計監査令和5年度期末監査
令和6年5月24日			・令和5年度収支決算、事業活動 監事監査
令和6年6月5日	・令和5年度事業活動報告及び収支決算の議決（収支決算案の評議員会提案の承認）		
令和6年6月24日		・令和5年度収支決算案の議決（承認）	
令和6年8月22日 （理事会議決の省略）	給与規程における処遇改善手当等の改定		
令和6年8月29日 （理事会議決の省略）	野のゆり6次舎厨房再整備工事及び資金計画他		

令和6年9月 2, 3, 4, 5, 11, 12日			・会計監査（3エリア）
令和6年10月11日 （理事会議決の省略）	契約職員給与規程 俸給表改定		
令和6年12月3日	・令和6年度収支 補正予算議決（補 正予算案評議員会 提案の承認）		
令和6年12月16日		・令和6年度収支補 正予算議決	
令和7年1月 21, 22, 23, 24, 28, 30日			・会計監査（3エリア）
令和7年1月30日			・会計監査（理事長 面談）
令和7年2月28日			・会計監査（かさま の杜サンプル往査）
令和7年3月4日	・令和7年度事業 計画及び事業収支 予算議決（計画案、 予算案評議員会提 案の承認）		
令和7年3月21日		・令和7年度事業計 画及び事業収支予 算議決	

【本部所管会議】

会議名称（出席者）	会議内容	開催日
経営会議幹事会 （参加者：業務執行理事、 事務局長）	○6月理事会・評議員会報告、議案関係の調整 ○経営会議議題調整	R6. 4. 12
	○6次舎改修（厨房設置）事業について ○令和6年度新規開設事業の進捗について ○会計監査スケジュールについて ○令和7年度執行体制について	R6. 7. 11
経営会議 （参加者：業務執行理事、 事務局長、事業部門統括施	○6月理事会、評議員会での報告議案事項確認 ○報酬改定に伴う影響について ○広報誌の作成について	R6. 4. 16

設長及びエリア責任者)	○6月理事会・評議員会の報告・議案確認 ○新ドメイン・アドレスへの移行について	R6. 5. 9
	○6月5日理事会、24日評議員会、理事会の報告、議案資料の確認	R6. 5. 16
	○懲戒委員会報告 ○処遇改善手当の改定について ○9月実施の事業費ヒアリングについて	R6. 7. 31
	○理事会（議決の省略）議案事項確認 ○事業ヒアリングの日程について	R6. 9. 11
	○異動に関する意向調書について ○補正予算作成について ○12月理事会・評議員会の報告、議案の調整	R6. 10. 31
	○令和7年度執行体制編成会議について ○事業ヒアリング回答について ○12月理事会・評議員会の報告、議案資料の確認	R6. 11. 14
	○令和7年度新卒採用者報告 ○令和6年度事業ヒアリングまとめ ○令和6年度中準備をする事項について ○3月理事会・評議員会の報告、議案の調整	R6. 12. 20
	○中途採用について ○令和7年度新卒採用者報告 ○令和7年度事業活動方針について ○令和7年度収支予算について	R7. 1. 31
	○3月理事会・評議員会の報告、議案の確認	R7. 2. 7
児童福祉部門連絡会 （参加者：執行理事、各部門施設長等により構成）	☆全体会議 ・運営報告 ・くるみ学園児童虐待に係る改善事項に関する報告 ・経営会議より ・各事業所間の交流についての協議 ・保育士特定登録者システムについて ・保育部門連絡会開催場所について ・その他	R6. 4. 16

児童福祉部門連絡会 （参加者：執行理事、各部門施設長等により構成）	★養護障碍分科会 ・運営報告 ・くるみ学園児童虐待に係る改善事項に関する報告 ・経営会議より ・各事業所間の交流についての協議 ・保育士特定登録者システムについて ・その他	R6. 5. 14
	★保育分科会 ・当日大雨警報で各保育園長が対応のため中止	R6. 6. 18
	☆全体会議 ・運営報告 ・くるみ学園児童虐待に係る改善事項に関する報告 ・経営会議報告 ・今年度の児童福祉部門施設間交流について ・ポート金が谷よりケース報告 ・杜の郷被措置児童虐待通告についての報告 ・日本版 DBS 法案成立について ・その他	R6. 7. 16
	★養護障碍分科会 ・運営報告 ・くるみ学園児童虐待に係る改善事項に関する報告 ・経営会議報告 ・杜の郷被措置児童虐待通告についての報告 ・児童虐待防止委員会開催報告 ・その他	R6. 8. 13
	★保育分科会 ・運営報告 ・くるみ学園児童虐待に係る改善事項に関する報告 ・経営会議報告 ・その他	R6. 9. 17
	☆全体会議 ・運営報告	R6. 10. 15

児童福祉部門連絡会 (参加者：執行理事、各部門施設長等により構成)	・くるみ学園児童虐待に係る改善事項に関する報告 ・ポート金が谷ケース報告 ・意向調査票及び面談の確認 ・経営会議報告 ・その他	
	★養護障碍分科会 ・運営報告 ・くるみ学園児童虐待に係る改善事項に関する報告 ・虐待防止委員会開催について ・監査日程確認 ・意向調査票及び面談の現状 ・経営会議報告 ・その他	R6. 11. 19
	★保育分科会 ・運営報告 ・くるみ学園児童虐待に係る改善事項に関する報告 ・虐待防止委員会報告 ・監査日程確認 ・意向調査票及び面談の現状 ・経営会議報告 ・その他	R6. 12. 17
	☆全体会 ・運営報告 ・くるみ学園児童虐待に係る改善事項に関する報告 ・監査日程確認 ・意向調査票及び面談の現状 ・経営会議報告 ・一時保護司法審査導入について ・その他	R7. 1. 14
	☆全体会 ・運営報告 ・くるみ学園児童虐待に係る改善事項に関する	R7. 2. 18

児童福祉部門連絡会 (参加者：執行理事、各部門施設長等により構成)	報告 ・ 監査報告 ・ 意向調査票及び面談の現状 ・ 各事業所欠員状況 ・ 次年度の児童福祉部門連絡会について ・ 経営会議報告 ・ その他	
	☆全体会 ・ 運営報告 ・ 退職者の変更等の確認 ・ 経営会議報告 ・ 人事関係 ・ 虐待防止委員会 委員について ・ 施設入所児童におけるマイナ保険証移行に伴う取り扱いについて ・ 来年度の児童福祉部門連絡会日程について ・ 来年度の児童福祉部門連絡会参加者の確認 ・ その他	R7. 3. 18
高齢者福祉部門連絡会議 (参加者：執行理事、各部門施設長等により構成)	・ 各事業所の月次報告/収支状況確認 ・ 介護報酬改定の対応状況 ・ 居宅部門連絡会報告 ・ 通所介護部門連絡会の立ち上げについて ・ 人材確保と育成の取り組みについて	R6. 4. 12
	・ 各事業所の月次報告 ・ 部門間交流の今後の取り組み ⇒通所介護部門連絡会の開催に向けて ・ 月間事業報告書（様式3：自主事業報告）の共有について ・ デイサービスの昼食代の検討 ・ 介護予防支援事業の指定について ・ 人材確保と育成の取り組みの検討	R6. 5. 13
	・ 各事業所の月次報告、収支状況確認 ・ 介護予防支援事業の指定の進捗の共有 ・ 中野 CP で起きた転倒骨折事故の共有 ・ 通所介護部門連絡会の開催について ・ 人材確保と育成の取り組みについて	R6. 6. 14

高齢者福祉部門連絡会議 (参加者：執行理事、各部門施設長等により構成)	・各事業所の月次報告、収支状況確認 ・居宅部門連絡会報告 ・通所介護部門連絡会の開催について ・人材育成：主任、副主任マネジメント研修についての検討	R6. 7. 12
	・各事業所の月次報告、収支状況確認 ・通所介護部門連絡会の今後の予定について ・ヒアリングシート作成に伴う、すり合わせ ・人材育成：主任、副主任マネジメント研修についての検討	R6. 8. 9
	・各事業所の月次報告、収支状況確認 ・ヒアリングの実施について ・情報発信方法についての確認とマニュアルの確認 ・人材育成：主任、副主任マネジメント研修についての検討	R6. 9. 13
	・各事業所の月次報告、収支状況確認 ・居宅部門連絡会報告 ・虐待防止委員会の実施内容の検討 ・通所介護連絡会の開催について ・人材育成：主任、副主任マネジメント研修についての検討	R6. 10. 11
	・各事業所の月次報告、収支状況確認 ・人材育成：主任、副主任マネジメント研修についての検討 ・虐待防止委員会報告 ・ヒアリング 法人からの質問についての意見交換	R6. 11. 8
	・各事業所の月次報告、収支状況確認 ・片瀬理事より情報提供：誤嚥事故判決事例の共有。意見交換。 ・通所介護連絡会の報告 ・ヒアリング：法人からの質問への回答についての確認	R6. 12. 13
	・各事業所の月次報告、収支状況確認 ・介護サービス事業者経営情報データベースシ	R7. 1. 10

	ステムの対応について ・ R7 事業方針の作成の件 ・ 異動状況確認書類について ・ 人材育成研修（主任・副主任を対象としたマネジメント研修）打ち合わせ	
	・ 各事業所の月次報告、収支状況確認 ・ 次年度の高齢部門連絡会開催日の確認 ・ 高齢部門のキャリアパス・イメージシートについて ・ 人材育成研修（主任・副主任を対象としたマネジメント研修）打ち合わせ	R7. 2. 14
	高齢者福祉部門連絡会 主催研修 【主任・副主任対象】マネジメント研修	R7. 3. 6 R7. 3. 13
	・ 各事業所の月次報告、収支状況確認 ・ 虐待防止委員会開催について ・ 高齢部門のキャリアパス・イメージシートについて ・ 処遇改善加算届、介護サービス事業者経営情報の報告 ・ 次年度への引継ぎ状況確認 ・ 人材育成研修（主任・副主任を対象としたマネジメント研修）研修の振り返り	R7. 3. 14
障害者福祉部門連絡会議 （参加者：執行理事、各部門施設長等により構成）	・ 各事業所の現況 ・ 報酬改定、体制届提出での現況、課題共有 ・ 年間における議題、共通事項などの検討内容の確認	R6. 4. 15
	・ 各事業所の現況 ・ コロナ現況、対応に関する情報交換 ・ 活動内容の現況分析、整理 ・ 報酬改定、体制届提出での現況（生活介護で算定する開所時間） ・ GH の休日支援体制、入所の支援体制、運営規定	R6. 5. 20
	・ 各事業所の現況 ・ 今後のコロナ対応 ・ 活動内容の分析、整理	R6. 6. 17

障害者福祉部門連絡会議 (参加者：執行理事、各部門施設長等により構成)	・ GH 支援体制（南部エリア GH 各種資源の概要と利用事例 ・ 口腔衛生関連の加算について	
	・ 各事業所の現況 ・ GH 支援体制（北部 各種資源の概要と利用事例）。訪問診療、訪問看護について ・ 地域連携推進会議について ・ 活動内容の現況分析、整理（新規施設の実施拠点及び実施内容の提案につなげていくために）	R6. 7. 22
	・ 各事業所の現況 ・ 活動内容の現況分析、整理（マトリックス整理、試食などの検討） ・ GH 支援体制（訪問診療及び訪問看護導入に留意点として） ・ 地域連携推進会議の目的及び内容	R6. 8. 19
	・ 各事業所の現況 ・ 活動内容の現況分析と連携（ワーク中川センター南店の現況をもとに情報共有、高齢・重度化での活動内容の検討） ・ GH の支援体制（通院支援、食事提供について） ・ 入所支援（地域移行への取り組みについて） ・ 地域連携推進会議について ・ 障害者支援施設等における医療機関との連携強化・感染症対応力の向上について	R5. 9. 17
	・ 各事業所の現況 ・ GH 支援体制（各ホームにの实費負担にかかわる現状把握） ・ 施設入所支援における地域移行の取り組みについて ・ 相談支援事業所リノの取り組み報告 ・ 地域活動ホームの相談支援の関係機関、自立協、インフォーマル等の連携事例	R6. 10. 21
	・ 各事業所の現況 ・ 事業ヒアリング回答情報共有（通所） ・ 基準・報酬上から見た入所と GH の相違点	R6. 11. 18
	・ 各事業所の現況	R6. 12. 23

	・ GH 支援体制（ホームごとの利用者属性から見た事業活動収支） ・ 情報共有（入所調整見直しについて、年間計画に入れるべき研修、委員会について）	
	・ 各事業所の現況 ・ 現状の各事業所における活動内容の整理 ・ 情報共有（理事長より話題、年間に入れるべき研修、委員会について）	R7. 1. 20
	・ 各事業所の現況 ・ 入所施設の求められる機能について整理する（障害者支援施設の在り方などに係る今後の検討スケジュール案）	R7. 2. 17
	・ 各事業所の現況 ・ 通所、入所における次年度の検討議題について ・ 理事長より話題（自然死で逝くということ）	R7. 3. 17
西部エリア会議 （参加者：執行理事、エリア内施設長等により構成）	・ 成人移行会議について ・ サビ管、計画相談、強度行動障害研修について ・ 産業医と面談について ・ おろそかにされた真因究明のプリント配布	R6. 4. 25
	・ 成人移行会議について（GHの進捗状況） ・ 福祉避難所、BCP 計画、参集訓練について ・ 法人理念、虐待防止の心得について改定 ・ 処遇改善加算、超過勤務について	R6. 5. 24
	（各施設の主査参加） ・ 各施設運営・ケース報告 ・ 臨時特例交付金とベースアップ加算 ・ 横浜市指導監査の共有	R6. 6. 20
	・ 成人移行会議について（GHの進捗状況） ・ 管理当番、通常の打ち合わせ、委員会や会議について ・ 令和 7 年度における市内障害福祉サービス事業所設置など意向調査について	R6. 7. 24
	・ 成人移行会議について（GHの進捗状況） ・ 第 1 回福祉避難所情報共有システム活用訓練について	R6. 8. 22

西部エリア会議 (参加者：執行理事、エリア内施設長等により構成)	・ くるみ祭りについて	
	(各施設の主査参加) ・ 中途採用状況 ・ 健康診断項目について	R6. 9. 26
	・ 野のゆり 6 次舎パントリー工事について ・ インフルエンザ予防接種の件 ・ 成人移行会議について（GHの進捗状況） ・ くるみ祭りについて	R6. 10. 24
	中止	R6. 11
	(各施設の主査参加) ・ 電子稟議システムの運用について ・ 健康診断項目について	R6. 12. 26
	・ 野のゆり 6 次舎パントリー工事の件 ・ 次年度年間スケジュール、研修について ・ 障碍部門（西部、北部においての入所及びGHの利用者編成会議） ・ 西部エリアGH連絡会議 ・ 第 2 種医療機関について ・ 地域連携推進会議について	R7. 1. 24
	・ 野のゆり 6 次舎パントリー工事の件 ・ 次年度年間スケジュール、研修について ・ 管理当番体制について ・ 令和 7 年度執行体制編成作業部会について ・ 第 2 種医療機関について ・ 地域連携推進会議について	R7. 2. 27
	・ 職務分担表について ・ 令和 7 年度職員の駐車スペースについて	R7. 3. 26
北部エリア会議 (参加者：執行理事、エリア内施設長等により構成)	・ 各事業所の運営状況共有 ・ 年間計画の確認 ・ 新型コロナウイルス感染症の取り扱い変更について ・ 体制届について確認	R6. 4. 8
	・ 各事業所の運営状況共有 ・ 令和 5 年度事業報告・決算報告 ・ 報酬改定について概要確認 ・ 70 歳以上のドライバーの適性検査について	R6. 5. 7

北部エリア会議 (参加者：執行理事、エリア内施設長等により構成)	・各事業所の運営状況共有	R6. 6. 3
	・各事業所の運営状況共有 ・障害者雇用について ・報酬改定について (QA) ・個別メールアドレスの変更について	R6. 7. 8
	・各事業所の運営状況共有 ・虐待防止委員会設置にかかわる運営規定の改定について ・事業計画に関する法人ヒアリングの実施について ・給与規定改定について ・備品等購入に伴うポイントの取り扱いについて (注意喚起)	R6. 8. 5
	・各事業所の運営状況共有 ・補正予算について ・宿泊旅行について	R6. 9. 3
	・各事業所の運営状況共有 ・再雇用、再々雇用者について確認 ・個人情報の取り扱いについて	R6. 10. 7
	・各事業所の運営状況共有 ・補正予算について ・パソコンのアップデートトラブルについて (注意喚起) ・食事提供加算について (記録の残し方)	R6. 11. 5
	・各事業所の運営状況共有 ・来年度予算について ・電子稟議の導入について ・マイナ保険証運用に関する情報提供 ・育児・介護休業法改正について (情報共有)	R6. 12. 2
	・各事業所の運営状況共有 ・ビーンズ保育園指導監査結果 ・電子稟議導入について ・感染症対応力の向上について；第二種協定指定医療機関との連携について	R7. 1. 6
	・各事業所の運営状況共有 ・キャリア採用にあたっての面接時の留意点に	R7. 2. 3

	ついて（注意喚起及び共有） ・ 障害者雇用について ・ 電子稟議導入について	
	・ 各事業所の運営状況共有 ・ 令和7年度年間休日数について（確認） ・ 令和7年度嘱託医勤務日について（確認） ・ 非常勤職員雇用時の経験年数算出方法について（共有）	R6. 3. 3
南部エリア会議 （参加者：執行理事、エリア内施設長等により構成）	・ 各事業所活動、会計報告・法人事業部門連絡会報告・令和7年度職員体制・エリア緊急連絡網の確認・法人人事等	R6. 4. 9
	・ 各事業所活動、会計報告・法人事業部門連絡会報告・年金管理委員会監査状況について・令和6年度災害対策組織図について・新人研修年間計画等の確認	R6. 5. 1
	・ 各事業所活動報告・法人事業部門連絡会報告・令和6年度 決算状況・新メールアドレスの件	R6. 6. 5
	・ 各事業所活動、会計報告・法人事業部門連絡会報告・法人研修関係について	R6. 7. 3
	・ 各事業所活動、会計報告・法人事業部門連絡会報告・事業所ヒアリングについて・虐待防止委員会メンバー更新の件・障害者雇用の件・横浜市の高齢化等について等	R6. 8. 7
	・ 各事業所活動、会計報告・法人事業部門連絡会報告・法人事業ヒアリングの実施について・規程類変更について	R6. 9. 4
	・ 各事業所活動、会計報告・法人事業部門連絡会報告・給与規定の改定について・異動希望調査の実施について・法人ヒアリングの進捗状況について	R6. 10. 2
	・ 各事業所活動、会計報告・法人事業部門連絡会報告・新卒採用者の件・異動希望調査に係る職員面談の進捗状況、今後のスケジュール等の確認（個別面談、所長意見書） ・ 法人ヒアリング回答の件・マイナ保険証の件 ・ SWOT の実施日程の確認	R6. 11. 6

南部エリア会議 (参加者：執行理事、エリア内施設長等により構成)	・各事業所活動、会計報告・法人事業部門連絡会報告・法人研修等 ・SWOT 実施後、事業計画・予算作成に向けて	R6.12.4
	・各事業所活動、会計報告・法人事業部門連絡会報告・令和7年度事業方針、予算作成・職員意向調査及び面談結果の確認・法人関係研修の今後の予定等	R7.1.8
	・各事業所活動、会計報告・法人事業部門連絡会報告・デスクネットワークフロー研修について・障害者雇用の検討・南部エリア事業計画(詳細版)の作成について・法人関係研修の今後の予定等	R7.2.5
	・各事業所活動、会計報告・法人事業部門連絡会報告・規程類変更の件・人事異動の件・職員欠員状況の共有・辞令交付式の件	R7.3.5

【理事長報告】

定例化した経営会議をはじめとする各部門会議やエリア会議の開催を受けて、それぞれの会議内容について理事長に下記の通り定例的に報告をしました。

第1、第2木曜日	障害者福祉部門会議報告	R6.4～R7.3の毎月実施 ◎各部門会議報告にあわせて経営会議報告も行っている。
第3木曜日	高齢者福祉部門会議報告	
第4木曜日	児童福祉部門会議報告	
第5木曜日	3エリア会議報告	R6.5月、8月、10月、R7.1月

2 人材確保・育成

令和7年4月採用の新規学卒者の採用活動について、昨年度に引き続き30人を目指してきましたが、合計15人の新卒者の採用となりました。また、令和7年4月採用の既卒者を6名採用し、結果として21名の採用となりました。また、令和7、8年度の採用に向けて、実績報酬型のリクルート活動を実施する企業と提携し、学生に対して早期のアプローチも予定をしています。

人材の育成に関しては、法人本部企画では中途採用職員に対して法人理念を中心とした入職時研修及びビジネスマナー研修を実施しました。また、冒頭にありましたアンガーマネジメント研修を全職員に向けて実施しました。さらに、会計監査人より内部チェックの方法や監査の必要性についての研修を全施設長向けに実施しました。

本部とは別に、3エリアごとに初任職員、中堅職員とキャリア別、高齢、児童、障害の各分野別での研修内容を検討し、法人職員として求められる姿(組織人、専門職としての両面

での育成)の形成に努めました。【研修内容については巻末資料1】

3 財務・予算

今年度についても、各事業所の効果的な運営を検討するために各事業所の現況と課題把握のために第1四半期終了後の9、10月にかけて法人本部が施設・各事業所のヒアリングを行いました。ヒアリング結果を踏まえ、令和6年度補正予算、令和7年度収支当初予算編成の資料としました。

また期中の執行については、執行状況を毎月税理士による確認を行ってきたほか、会計監査人による会計監査を実施し、予算等の適正な執行に努めました。

☆令和6年度事業ヒアリングの実施スケジュール

日 時	対 象	日 時	対 象
9月18日 午前	児童養護施設・子ども家庭支援センター	10月1日 午前・午後	障害者通所施設
9月24日 午前	障害者地域活動ホーム	10月2日 午後	障害児施設
9月24日 午後	計画相談、自アシ、2次相談	10月4日 午前・午後	グループホーム
9月25日 午後	小規模多機能型居宅介護、訪問介護事業	10月8日 午後	地域ケアプラザ
9月27日 午後	保育園	10月9日 午後	障害者入所施設

4 令和6年度 新規・拡充事業

障害者グループホーム（共同生活介護） ・新設1か所2ホーム・移転1か所2ホーム
新設予定のグループホームについては、令和7年3月頃の開設を目指しましたが、候補地の確保ができず未設置となりました。また移設についても、候補地が先方の事情によりキャンセルになり未実施となりました。近年、建設費の高騰や職人不足により、1年間での建物建設が難しく、建設期間の延長を余儀なくされることが多くなっているため、横浜市のグループホーム担当職員へ、複数年度にわたる申請が必要である旨申し入れを行っています。

5 危機管理対応

令和6年度は、業務継続計画の策定と研修実施を行いました。さらに令和7年度へ向けて感染症対策として、居住施設における第2種協定指定医療機関との協定を締結しました。

さらに、地域連携推進会議の設置に向けて委員の選定や説明会を実施し、地域との連携を進めています。

6 施設内虐待事案への対応

令和6年5月に児童福祉部門で1件（ぼらいと・えき職員）の施設内虐待事案が発生しました。令和5年に感染症のまん延対策として、入所児童で新型コロナ発症者及び濃厚接触者が出た場合は各居室で過ごすよう対策がとられました。そのうち男子棟2階の重度自閉症の児童が、居室で過ごすことが難しい為、居室の内鍵と外鍵を入れ替えて居室外へ出ないよう隔離対応をとりました。そのまま内鍵と外鍵が入れ替わっており令和6年12月現在も鍵が入れ替わったままの状態であることがわかりました。身体拘束の3原則に基づき、居室の施錠開錠の具体的な記録を取るようになっていましたが、施錠開錠時間の具体的な記録がされておらず、統一的な書式もありませんでした。

今後について、施設長をはじめとした身体拘束3要件の研修を再度徹底すること、早急に記録の書式を作成し、職員に共通の認識をするべく研修を行いました。

7 令和6年度の事業報告

（1）継続事業

部門	種別	事業所	令和6年4月定員等	令和6年度末数値目標等	令和6年度末（令和7年3月末）達成状況
高齢部門	地域ケアプラザ	奈良地域ケアプラザ ①通所介護 ②居宅介護支援 ③地域包括支援センター ④地域交流	①通所介護（定員30人/日）通常規模型 ※②要支援者は0.5件換算	①目標平均利用人数 27人/日 ②目標居宅計画数 165件/月 ③給付管理数見込 220件/月	①3月末平均利用人数25.9人/日 ②3月末居宅計画数 175件/月 ③3月末給付管理数 197件/月
		青葉台地域ケアプラザ ①居宅介護支援 ②地域包括支援センター	※①要支援者は0.5件換算	①目標居宅計画数 150件/月 ②給付管理数見込 252件/月	①3月末居宅計画数 155件/月 ②3月末給付管理数 226件/月

高齢福祉部門	地域ケアプラザ	③地域交流			
		中野地域ケアプラザ ①通所介護 ②居宅介護支援 ③地域包括支援センター ④地域交流	①通所介護（定員 42 人/日）通常規模型 ※②要支援者は 0.5 件換算	①目標平均利用人数 28.5 人/日 ②目標居宅計画数 255 件/月 ③給付管理数見込 275 件/月	①3 月末平均利用人数 26.8 人/日 ②3 月末居宅計画数 279 件/月 ③3 月末給付管理数 201 件/月
		日下地域ケアプラザ ①通所介護 ②居宅介護支援 ③地域包括支援センター ④地域交流	①通所介護（定員 42 人/日）通常規模型 ※②要支援者は 0.5 件換算	①目標平均利用人数 25.6 人/日 ②目標居宅計画数 153 件/月 ③給付管理数見込 193 件/月	①3 月末平均利用人数 24.9 人/日 ②3 月末居宅計画数 145 件/月 ③3 月末給付管理数 199 件/月
	小規模多機能	晴	登録利用定員 29 人/日	登録利用者数 25.0 人/月平均	登録利用者数 24 人
	訪問介護事業	らいふけあ中野	派遣登録者数 120 件/月	派遣登録者件数 110 件/月平均	派遣登録者件数 85 人（要介護 46 人、要支援 39 人）
児童福祉部門	保育園	杜ちやいんど園	入所定員 70 人	月当初の年間平均入所児童数 83 人	3 月末利用児童 83 人
		かさまの杜保育園	入所定員 120 人	月当初の年間平均入所児童数 132 人	3 月末利用児童 132 人
		ビーンズ保育園	入所定員 90 人	月当初の年間平均入所児童数 88.3 人	3 月末利用児童 88 人
		青葉メゾン	入所定員 60 人	① 3 施設の中から年度末に地	3 月末入所 60 人

障 碍 福 祉 部 門	障 害 者 支 援 施 設	ホルツハウ ゼ	入所定員 30 人	域移行者 6 名 以上	3 月末入所 30 人 短期 0 人
		くるみ学園 成人	入所定員 20 人	② ホルツハウゼ・ くるみ成人で は短期入所枠 各 2 名運用再 開	3 月末入所 20 人。 短期 2 人
	生 活 介 護 事 業	青葉メゾン	通所定員 60 人 (現員 64 人)	新規受入れ者数 2 人 利 用 率 目 標 96.4%	令和 6 年 3 月末現 員数 ; 62 人 利用率 94.9%
		ダ・カーポ	通所定員 20 人 (現員 22 人)	新規受入れ者数 0 人 利用率目標 96.3%	令和 6 年 3 月末現 員数 ; 24 人 利用率 89.8%
		ワークステ ーション・ ポパイ	通所定員 20 人 (現員 ; 20 人)	新規受入れ者数 0 人 利用率目標 98%	令和 6 年 3 月末現 員数 ; 20 人 利用率 91.3%
		十日市場ワ ークステー ション	通所定員 20 人 (現員 ; 24 人)	新規受入れ者数 0 人 利用率目標 92%	令和 6 年 3 月末現 員数 ; 24 人 利用率 77.8%
		ワーク中川	通所定員 60 人	今年度新規受入れ 者数 1 人 利用率目標 90%	3 月末利用者数 65 人 利用率 84.6%
		しゅしゅ・ あゆみが丘	通所定員 20 人	今年度新規受入れ 者数 1 人 利用率目標 90%	3 月末利用者数 17 人 利用率 85.3%
		道	通所定員 20 人	今年度新規受入れ 者数 0 人 利用率目標 90%	3 月末利用者数 17 名
		野のゆり・ 6 次舎	通所定員 80 人	今年度新規受入れ 者数 2 人 利用率目標 97%	3 月末利用者数 81 名
		ひかりの園	通所定員 60 人	利用率目標 93%	3 月末利用者数 61 人 利用率実績 87.3%
		くるみの森	通所定員 40	今年度新規受入れ	3 月末利用者数 39
	障 碍 福 祉 部 門	生 活 介 護 事 業			

障 碍 部 門			人	者数 1 人 利用率目標 90%	人 利用率実績 89.6%
	就 労 継 続 B 型	SELP・杜 ※生活介護 併設	通所定員 50 人（生活介護 10 人）	① 2 事業所合計 の新規受入者 数 3 人	3 月末利用者数 75 人
		杜の茶屋 ※生活介護 併設	通所定員 50 人 （生活介護 30 人）	② 各所の利用率 目標 93% ③ 工賃 16,000 円 /月（日額 800 円維持）	3 月末利用者数 90 人 ※各所の通年利用 率 92%
		横浜光セン ター ※生活介護 併設	通所定員 40 人（就 B30 人、生 活介護 10 人）	① 利 用 率 目 標 94% ② 就 B 工 賃 25,000 円	・ 3 月末利用者数 39 人 ・ 通年利用率 93% ・ 就 B 工賃 30,000 円
	共 同 生 活 援 助 （ グ ル ー プ ホ ーム）	アンダンテ	入居定員 65 人	今年度新規受入れ 者 1 人 通年利用率 93%	3 月末利用者数 63 人 通年利用率 88.8%
		くるみホーム	入居定員 70 人	4 月時点でサテラ イト 1 人退所。 利用率目標 98%	年度末移転実施で きず。3 月末利用者 数 68 人
		ひかりホーム	入居定員 22 人	通年利用率 93%	3 月末利用者数 22 人 通年利用率 95.5%
		みなと	入居定員 20 人	通年利用率 95%	3 月末利用者数 20 人 通年利用率 93%
		空	入居定員 60 人	通年利用率 88%	3 月末利用者数 60 人 通年利用率 86%
		リオ・中川	入居定員 18 人	利用者変更なし 利用率 77%	3 月末利用者数 18 人 利用率 85.1%
		えき	入居定員 30 人	利用者 30 人を予定	3 月末利用者数 29 人

障 碍 部 門	奈良障害者ショートステイセンター		利用定員 19 人	年間平均利用者数 13 人/日	3 月現在 年間平均利用者数 16.07 人/日
	地 域 活 動 ホ ー ム	あおぞら	通所定員 40 人	今年度新規受入れ 者数 1 人	3 月末利用者数通 所利用 40 人(デイ 型:1 人)
			一時ケア・ショール ステイ	泊数: 650 泊	実績 (3 月末見込 み) 620 泊
		すてっぷ	通所定員 40 人 一時ケア・ショール ステイ	今年度新規受入れ 者数 0 人 泊数: 600 泊	3 月末利用者数通 所利用 42 人(デイ型: 2 人) 実績 (3 月末見込 み) 539 泊
	後見的 支援事 業	ほっぷ		年度末の登録地域 キーパー360 人	地域キーパー登録 者数 322 人
	自 立 生 活 ア シ ス タ ン ト	南部エリア (地域生活 支援室) 北部エリア (青葉メゾ ン)		・目標登録定員 25 名 ・目標登録定員 20 名	3 月末登録者 19 名 3 月末登録者 12 名
	相 談 支 援 (計 画 相 談)	相談支援事 業所リノ	契約者 557 名	新規 5 件 更新 557 件 モニタリング 1056 件	3 月契約者 562 名

II 部門別活動目標

1 高齢者福祉部門

(1) 地域ケアプラザ(奈良、青葉台、中野、日下)

新型コロナウイルス感染症の5類化以降、地域社会が日常を取り戻しつつある中で、さらなる活性化を目指して様々な取り組みを行いました。

地域住民の福祉・保健活動の支援に加え、地域コミュニティの結束を強化し、住民主体の支援体制の構築に努めました。各部門が連携し、それぞれの専門性を活かしながら、地域のニーズに対して総合的かつ的確な支援を展開しました。地域の課題を明確にし、住民

と協力してその解決に取り組む中で、持続可能な地域社会の実現に向けて一定の成果を上げることができました。

また、組織内における高齢化や中堅職員層の不足、人材確保の困難といった経営課題に対応するため、高齢部門連絡会を中心に、戦略的な採用活動の検討や、研修プログラムの充実、職場環境の改善に取り組みました。具体的には通所介護連絡会を発足、また主任・副主任マネジメント研修の実施（3月/計2回）などを行っています。

運営面では施設設備の経年劣化に伴う修繕箇所の増加が課題となっています。この課題に対し、横浜市と連携・協議を重ね、補助金制度等の活用を含めた計画的な修繕を進めました。主な大規模の修繕等としては、青葉台地域ケアプラザではB2階部分のLED工事、中野地域ケアプラザではエレベーターの更新工事を完了しています。

介護保険事業においては、令和6年4月の介護報酬改定に対応し、加算算定の見直しを行いました。また、自然災害時や感染症に備えるための業務継続計画（BCP）に関する研修および訓練も、義務化に対応して実施しました。

さらに、中野地域ケアプラザおよび日下地域ケアプラザにおいては、横浜市の指定管理者制度に基づく次期指定期間（R8～12年度）の選定申請の準備を進めました。

ア デイサービス事業（奈良、中野、日下）

【通所介護 / 横浜市介護予防・日常生活支援総合事業】

高齢者デイサービス事業については、常に安定した利用者の受け入れを行うため、十分な職員体制を確保し、質の高いサービスの提供に努めました。

また、基本的な感染症対策については継続して徹底し、ご利用者が安心して利用できるような環境づくりを推進しました。加えて、個別機能訓練やレクリエーションプログラムを充実させ、ご利用者の満足度の向上と、心身の活性化に寄与する取り組みを行いました。

令和6年4月の介護報酬改定に際しては、各加算の算定要件に変更に対応し、人員配置やサービス体制の見直しを実施しました。これにより、効率的かつ適正な加算の取得を図り、制度改正にスムーズに対応することができました。

イ 居宅介護支援事業（奈良、青葉台、中野、日下）

【居宅介護支援 / 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント】

利用者の心身の状態や生活状況等に応じて、ご本人およびご家族の意向を尊重しながら、住み慣れた地域でできる限り自立した生活を継続できるよう支援を行いました。また、介護事業者や医療機関との連携を積極的かつ丁寧に進め、ご利用者やご家族が困った際にも迅速に対応できる体制を整えることで、安心して生活できる支援体制の構築に努めました。

令和5年度に発足した法人内4つのケアプラザによる居宅介護支援事業所の連絡会

は、令和6年度も継続的に開催されました。事業の質の向上と統一的な運営を目指し、書式の共通化や制度改正への対応、共同研修の企画実施などについて協議を重ねました。これにより、各事業所が一体となって質の高い支援を提供できる体制づくりを進めました。

ウ 地域包括支援センター事業（奈良、青葉台、中野、日下）

【地域包括支援センター運営 / 生活支援体制整備事業】

- 総合相談支援業務 ○権利擁護業務 ○包括的・継続的ケアマネジメント支援業務 ○多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議
- 介護予防ケアマネジメント ○一般介護予防事業介護予防支援

地域住民が住み慣れたまちで、健康的かつ安心して生活が送れるよう、総合相談への対応に加え、介護予防や権利擁護をテーマにした各種講座を企画・実施しました。これらの取り組みにより、住民の関心を高め、地域における支えあいの意識づくりに寄与しました。

また、認知症のある方を地域全体で支える体制の構築を目指し、啓発活動やネットワーク支援にも取り組みました。認知症サポーター養成講座の開催や、関係機関との連携強化を通じて、地域全体の認知症に対する理解の促進と支援体制の整備に努めました。

少子高齢化や家族形態の多様化が進む中で、包括支援センターに寄せられる相談はより複雑化しており、それに対応する職員には高い専門性が求められており、令和6年度は職員の資質向上を目的に、積極的に研修への参加を促しました。実践的な知識と技術の習得に力を入れたことで、よりの確かつ質の高い支援を提供できる体制の整備を進めました。

エ 地域活動・交流部門事業（奈良、青葉台、中野、日下）

- 自主企画事業 ○福祉保健活動団体等が活動する場の提供
- ボランティアの育成及びコーディネート
- 福祉保健活動等に関する情報集及び情報提供

令和6年度は、地域住民の参加を促す講座の開催や活動の場の提供を通じて、子どもから高齢者まで幅広い世代が集う交流の場づくりに取り組みました。世代を超えたつながりの促進を目的に、企画内容の充実を図り、地域の活性化に貢献する多様なプログラムを実施しました。

また、コロナ禍以前のような地域活動が徐々に再開される中で、地域のさらなる活力向上を目指し、新たな担い手となる人材の発掘・育成にも力を注ぎました。講座の参加者や地域ボランティアの中からリーダー候補を見出し、継続的な関わりを通じて、地域活動を担う存在として育成する取り組みを進めました。こうした活動を通じて、地域全体におけるつながりや支えあいの意識を一層高めることができました。

(2) 小規模多機能型居宅介護(「晴」) 訪問介護(「らいふけあ中野」)

晴では、地域で在宅生活を続ける要介護者に対し、「通い」「訪問」「泊まり」のサービスを組み合わせて生活の継続に向けて支援しています。

特に中重度の介護が必要な方や認知症のある方に対しては、馴染みの関係を大切にしながら継続的な支援を行い、ご家族の介護負担の軽減にも取り組んできました。

一方で、高齢化に伴って要介護者も増加しているものの、入所者の増加にはつながらない日々が続きました。入院後の状態悪化や、施設入所までの待機期間が短縮されたことにより、施設入所を選ぶ方が一定数見られたためです。

また、包括支援センターからは介護予防に関する相談も寄せられていることから、次年度からは介護予防事業を新たに実施し、要支援者を含めた利用登録の拡大を目指したいと考えています。

らいふけあ中野は、支援が必要な高齢者が、住み慣れた地域でその人らしく自立した在宅生活が維持・継続出来るよう、できるだけ本人の意向に添った訪問介護サービスを提供します。新規の依頼にもできる限り対応できるように、訪問介護員のマンパワーを最大限に生かしながら、丁寧な支援を心がけました。またサービスの質の向上のため、多職種と連携を取りながら、研修の充実を図るとともに、訪問介護員が「やりがい」や「達成感」を感じられるような派遣調整をしました。

2 児童福祉部門

(1) 児童養護施設・児童自立援助ホーム

ア ポート金が谷・サウウエスト金が谷

令和6年度は、1名のこどもが年度末に18歳を迎えての措置解除となり、デザイン関係に携わりたいという夢をかなえるべく、奨学金制度を活用して進学したと同時に単身生活となりました。まだまだ安定した生活を送るには、経済的にも精神的にも心配ではありますが、こどもが自分で決めた道を職員は応援することにしました。また18歳を迎えたもう1名は就労しました。しかし生活場所が令和6年度末の時点で決定しなかったため措置延長としましたが、基幹相談支援センターの協力もあり令和7年4月下旬には障害者グループホームへの入居が決定し措置解除となりました。18歳で卒園を迎えたふたりですが、幼児のころより入所しており、ふたりともおよそ15年もの年月をポート金が谷で過ごしてきました。様々なことがあり、こども自身が挫折そうになったり、反抗期を迎えたりしましたが、それでもたくさんの笑顔を見せてくれて、たくさんの思い出を作ってくれました。退所後のアフターフォローは自立支援担当職員が中心となり、専用のスマートフォンで退所児とやり取りをしています。アフターフォローの人数も多くなり、退所児の元担当職員と役割分担をしながら円滑にフォロ

一ができるよう工夫をしてきました。また、昨年度はこども1名が6月に亡くなりました。こどもも職員も大きな悲しみに包まれ、心身ともに体調を崩すものが出ましたが、行政機関によるこどものメンタルフォロー、法人産業医及び行政機関による職員のメンタルフォローなどで各機関の協力を得ることが出来たことはこどもにとっても、職員にとっても心の支えの一助となりました。

サウウエスト金が谷は、年度途中に6名が退所しました。退所理由は様々ですが、自立したこどももいれば、飛び出す形での退所となったこどももありました。どのこどもも自立することを目標としていますが、その支援の難しさを感じた1年でした。現在入所しているこどもたちには、学校に関する支援や、退所後の生活設計など自立生活に向けての支援を継続しています。

支援面においては、ポート金が谷もサウウエスト金が谷もこどもの自立心を養うべく、こどもの夢や希望を聞き取ることと、現状の課題について話し合いを行いながら自立支援計画を立案することができ、自立に向けての支援を積み重ねることができました。

子育て短期支援事業については、新規ケースを受け入れたとともに、継続的にかかわっているケースについて可能な範囲で利用希望に添えるよう調整を行い実施することが出来ました。また関係機関とのケースカンファレンスや連絡などを行い、地域で安心した生活を送るための一助を担えたと考えます。

今後も児童養護施設、自立援助ホーム共に精神的、社会的な自立に向けての生活を組み立てるための継続的な支援を展開していくとともに、ひとりひとりが安心して安定した生活を送れるよう支援を積み重ねていきます。

イ 杜の郷

令和6年度の杜の郷は、被措置児童虐待が発覚しました。こども達の安心、安全な家庭であるべき場所で、このような結果になったことは深く反省し、二度とこのようなことが起きないように取り組んでいかななくてはなりません。

9月～3月まで、大学の先生にお越しいただき、虐待防止、こどもの権利擁護、愛着形成を軸にした施設養育の展開、杜の郷が組織・チームとして何を大切にして養育に取り組むのか、職員の連携・協力による養育力や支援力の向上に向けて、職員全員でコミュニケーションを図りながら、グループワークを行い、共通認識、共通理解を図りながら、これからの杜の郷が目指すべき養育や支援について協議してきました。令和7年度もこの研修を継続し、職員の一体感を高めながら、再発防止に努めます。

今年度は児童数28人でのスタートでした。年度途中で2人が措置変更で他施設へ移動となり26人となりました。3月末には18才で5人が社会へ巣立っていきました。1人が進学で一人暮らし、4人は障がい手帳を使用してグループホームに入居し、そこからそれぞれの職場へ通うこととなりました。しかし、その中の1人が都合でグル

ープホームの入居ができなくなったため、措置延長で杜の郷から職場へ通うこととなりました。また、2人の児童が家庭復帰となり、杜の郷を退所となりました。新規入所が3月途中に1人いたため、最終的に3月末の時点で児童数は21人となりました。

5人が一度に18才で社会へ巣立っていくというのは、杜の郷としては初めてのことでした。特に4人が障がい手帳を使つての就労先と、住まい選びでしたので、杜の郷の職員だけでは対応が難しく、基幹相談や区の障がい担当等、関係機関の方々の力を借りて、何とか3月末までに決めることができました。児童養護施設にも障がい手帳のある児童が増えているため、障がい者支援の方々、機関との連携、協力が不可欠でした。また、児童養護施設職員の障がい者支援の制度や仕組みの理解が必要と痛感しました。

今年度卒園した18才の児童のほとんどが、杜の郷開所時から在籍していた児童でした。この5人が卒園したことで、開所当初から在籍した児童はいなくなりました。これから迎える新年度は、新たな杜の郷として、今年度、そして今までの反省を踏まえ、改めて真摯な気持ちでこども達に向き合い、生活をともにし、継続し積み重ねていくことで、こども達から出会えて良かったと思われる職員集団となっていけるよう努めていきます。

ウ 杜の郷子ども家庭支援センター・ふれあい塾（寄り添い型生活支援事業）

令和6年度も令和5年度に続き児童家庭支援センターの事業費算定基礎となる年間相談件数は、5000件を越え、最も多い区分（4400件以上）となりました。学校関係との連携も増え、養育支援事業だけでなく、一般相談も増えてきています。

子育て短期支援事業では、年間450件を越える預かりを実施しました。昨年度より、100件ほど減少しましたが、個々の預かりを検証すると、マンツーマン対応が必要で、他の児童と一緒に場にいられない、より丁寧な対応を要する児童が増えていることがわかりました。

児童福祉を取り巻く環境は大きく変化しています。「横浜市社会的養育推進計画」（R7～R11）でも児童家庭支援センターの強化がうたわれ、令和7年度には指導促進事業による支援がモデル実施されます。

行政とご家庭の間に立ち、これまで培ってきた関係機関との密な連携をより一層深めながら、身近な相談機関として、親身に相談に耳を傾け、その家庭にとって必要な支援につなぎ、支援が有効なものになる様に子どもとその家庭を支えていきます。

令和6年度も地域交流事業として、「畑の日」と「プラレールで遊ぼう」の二つの事業を実施することができました。同じ内容の活動を何年も継続してきたことで、地域に根付き、事業を楽しむにされている問い合わせなども寄せられるようになりました。

身近な相談機関として、親身に相談に耳を傾け、その家庭にとって必要な支援につなぎ、その支援が有効なものになる様に子どもとその家族を支えていくことを継続します。

ふれあい塾は小学校段階からの「学習」支援をメイン事業としており、特に宿題や課題をふれあい塾で取り組めることで保護者が支援を受け入れやすい仕組みを今年度も作ってゆきます。また、中長期的にかかわることで関係を築き他機関の支援につなげていくことにも努めてゆきます。支援を受ける・支援をするという立場を踏まえつつ、同じ目線に立って利用者とその保護者と関わってゆきます。

子ども家庭支援センターとふれあい塾は、車の両輪で動くことを常に意識して協働してゆきます。

(2) 障害児施設

ア くるみ学園児童

令和4年11月、令和5年9月と、2年にわたって発生した被措置児童等虐待事案は、児童が抱える様々な課題を浮き彫りにしました。その課題の一つ一つに対処すべく、令和5年度及び令和6年度の2か年に渡って、改善計画に基づく再発防止に向けての取り組みを、このために児童福祉部門虐待防止委員会に立ち会った第三者委員会の審査を受けながら、進めてきたところです。第三者委員会からは、取り組みは順調に進んでいるとの一定の評価を受け得たものの、同時に業務負担の軽減など今後の取り組みに期待する、という評価も受けており、まだまだ第一歩を生み出したに過ぎないことを実感しております。改善計画に基づく再発防止に向けての取り組みに対する第三者委員会による審査は、この2年間で終了となりますが、この2年間の実績をベースに、さらに推進していきます。

令和6年度は、年度当初の入所はなく、男児10人（4月末までの措置延長時を含む）、女児6人の16人でのスタートとなりました。12月には中学校2年生女児1名、2月に中学校3年生男児1名を受け入れました。

卒業生の進路では、高校3年生男児3人は、1人は当法人外のグループホームから特例子会社に就職、1人は当法人外のグループホームから飲食店に障害者雇用枠での就職、1人は障害者支援施設の入所希望でしたが、どこも空きがない状態でしたので、ホルツハウゼに短期入所枠で入所し、野のゆり6次舎を利用することになりました。そしてもう1人、中学校3年生女児が中学校卒業を機会に、家庭引き取りとなりました。

短期入所では、未就学男児2人を女児フロアで受け入れました。また、中学校3年生男児1人、高校3年生男児をそれぞれ男児フロアで受け入れています。

昨年度は、第三者評価を受審しました。その結果については、当法人ホームページに掲載しています。

令和6年度は、20人定員のところ月平均15.5人の入所児童数であったことや報酬改定により、減収となったため、大変厳しい経営状況となっています。

イ ぼらいと・えき

4月は入所児童36名でスタートしました。順次受け入れを行い年度末には男女合計41名まで児童数が増加しました。令和6年度からの男児の受け入れを可能にするため、男性職員を増員し、これまで未使用となっていたB棟を活用できたことが大きな要因として挙げられます。さらにはB棟にて男児の短期入所、緊急一時保護を受ける体制が整い、年間で男女計240日の受け入れを行うことができました。女児は児童相談所からの利用依頼自体が少なく、入所女児は男児の半数にとどまっており、ユニット編成や職員編成で歪みが生じています。

利用児童の中で心理的なサポートが必要な数名を対象に施設内臨床心理士による定期的な面談を実施しました。短時間でも通年行う事で成長の跡が感じられています。これからも本人たちのペースで上手に利用できるよう焦らずに見守りを行います。

令和6年度の高3生8名については、仕事の間と生活の間を見つけそれぞれ巣立っていきました。令和7年度には5名を送り出すことになります。今年度も関係機関との移行カンファレンスを適宜実施しますが、子どもたちが期待をもって成人期の暮らしを迎えられるような場所を一緒に探していきます。

(3) 保育園

ア ビーンズ保育園

年度当初86名の児童数でしたが、5月には新入園児4名を迎え定員の90名を満たしました。年度途中の入退園があり月平均88.3名で、年度末は88名になり、19名が卒園しました。また、13名の外国籍園児、5名の障害をもたれた園児が在籍されておりました。

保育では、感染症対策での制約をなくしてコロナ渦以前の形態で1年間の行事や活動を行いました。夏祭りやビーンズフェスティバルは多数の保護者が参加されて大変賑やかに開催できました。また、人形劇とひな祭りでは地域の方も参加していただき交流する機会をもちました。

一時保育は、利用方法がウェブ申込みに変わり利用しやすくなりました。その為か年間を通して利用の問合せが多数ありました。1歳の申込みが多く、体制上受入れることが困難な状況で年度末は予約を停止しましたが、面談を希望する方もおりニーズの高さが見受けられました。年間では、103回の一時保育を受け入れました。

令和6年度から1歳児定員を1名増やしました。年間を通して1歳児クラスは定員を満たした状態が続きました。

引続き、育児講座と園庭開放を開催しました。育児講座は2回、交流保育は4回、園庭ホール開放は12回行い、延べ158名の地域に方々にご利用いただけました。

イ かさまの杜保育園

職員が子どもの発信を感じ取り共に学びあっていく関係、発達段階を意識した保育

のあり方を日々模索しました。主任保育士のスーパービジョン・ファシリテーション、副主任・クラスリーダーを中心とした職員間の密な情報共有により、日常保育の検証を常に行いました。発達に偏りのある園児への個別支援、グループワーク、チーム連携を意識して取り組み、よりよい支援の手ごたえをつかめました。児相、区役所、療育センター、子ども家庭支援センター等関係機関連携も進みました。大学の先生が現場に入っている人権研修が大きな効果となっており、関わり、環境の改善点や強みへのフィードバック等具体的アドバイスを生かしました。行事の持つ意義を職員と再確認すると共に、業務軽減できる部分は洗い出し、内容の再構築を行いました（夏祭り、運動会、造形展、年賀状作成）。行事前後での園児の変化と、保護者からの感謝の気持ちが職員のやりがい、前向きな仕事につながっています。栄区民祭や町内会行事、隣接するソイル栄祭での和太鼓演奏、法人内小規模多機能晴や近隣の高齢者施設利用者との交流が好評で、地域とのよりよい関係を生み出しています。今年度クラス配置変更（幼児クラスを1階のみでの保育、2歳児クラスを2階）により、園児の安全を確保することができましたが、2歳児クラスと幼児クラスの接続に新たな課題が生まれたため、次年度も配置変更を検討しています。11月から2月にかけて空調設備更新工事を中心とした大規模修繕を行い、無事完了しました。懸案事項である隣接マンション建設に伴う地盤沈下については、幼児クラス増築部分の改修工事に向け、マンション業者、増築時の設計士、施工業者と協議を継続していきます。

ウ 杜ちやいど園

子ども達には幸せに生きてほしいという大きな願いを持ち家庭と協力し、子ども達が安全な環境で安心してその子らしく暮らし、豊かな経験ができる場をつくっていくことを目標として過ごしました。今年度も子ども達の人権を意識し「聴き取る保育」を続けました。意識的にわらべうたを取り入れ活かしていくことで今年度も特に0～1才の子ども達の安心安全が満たされるまでの時間が短く担任との関係が早く築けたのは良かったです。幼児クラスでは新たに関係の作り直しが必要という意識が低かったことやそれぞれを大事にするあまり期待やしてほしいことの伝え方が弱くなってしまい特性の強い子にはわかりにくい人的環境になってしまいました。次年度は、年齢の特徴を押さえた関わりを意識し、異年齢保育は大事にしつつもプラス面だけでなくマイナス面も意識した保育を展開していこうと思っています。開園して11年目となり保育の見直しをするには良い時期なので、ひとつひとつなぜこうしているのか等の中身を意識し、全職員で自園の保育を振り返り質の向上に向かっていきたいと思います。

園のクレド（指針）ができ上がったため、次年度はそれを定着させていきます。さらに年度の後半から始めたキャリアアップも形になるのを目指していこうと思っています。

地域への取り組みとして行った子育て支援事業は人気がありましたが、来年度は産休予定者が多く対応が難しくなるので、内容の工夫をしながら行っていこうと思っています。

います。

【児童福祉部門 業務研修の取組実績は巻末資料2 参照】

3 障害者福祉部門

(1) 入所施設

ア くるみ成人・ホルツハウゼ

令和5年度に発生した虐待事案を踏まえ、令和6年度は生活支援、日中活動提供について根本的な見直しを行ないました。

はじめに、施設内の住環境について整理整頓と衛生管理を心がけ、不要な物品の処分や破損個所の修繕を円滑に行なうと共に消毒や換気を意識的に行ない利用者が安心できる空間作りに努めました。

生活支援では、これまで個別担当制で行なっていた支援をフロア担当制へと変更しました。フロアリーダーを中心に各利用者への支援について具体的な方向性を定めることにより職員間の共通認識が図られるようになりました。

日中活動では、利用者一人ひとりのニーズを改めて分析し、これまでの活動班体制からそれぞれの利用者の住環境（入所施設、グループホーム）と連動した活動提供体制へと移行をするための準備を進めてきました。「活動班」という枠にとらわれず、それぞれの利用者にとってより有意義な一日を過ごしてもらうためプログラムを再構築し次年度から開始したいと思っています。

人材育成については虐待防止の観点と併せ、各職員の支援力向上を目指し外部講師による研修を実施しました。支援の基礎となる障碍の理解や職員それぞれの価値観の違い、チームワークについて学び、施設職員として専門性を高めることの重要性を考えるきっかけとなりました。次年度へ活かしていきたいと思っています。

イ 青葉メゾン

障碍のある方々やご家族が安心して日常生活を営めるよう、医療、栄養、相談等、事業所内の様々な機能と連携しながら支援を行いました。生活支援においては、障碍特徴や年齢、ケア内容に応じた環境整備として、リフターの導入や収納スペースの整備などを行いました。作業活動では、新規作業の開拓には至りませんでした。学習課題中心の活動から自主製品の製作活動へと徐々に移行しつつあります。働く意欲や更なる社会参加へと繋げていければと思っています。高齢期の利用者に対しては、五感への刺激を意識した活動を提供しましたが、個別の関わりが中心となりました。今後は交流活動や社会性を引き出す関わりに取り組みたいと思います。

奈良障害者ショートステイセンターでは、体制を整えることができず、女性利用者については365日の受け入れができなかったものの、全体で80.4%の高い稼働率を維持することができました。利用希望や新規利用の申込みも多くあり、可能な限り対応してき

ましたが利用調整が必要になる事もありました。受け入れについては、日々の活動を工夫し、多様な利用目的に対応するよう支援を行いました。ショートステイセンターにおいても職住分離の支援を提供し、日常のリズムが崩れないよう配慮しました。またミドルステイ事業も2件実施し、対象者の再アセスメントに繋げる事が出来ました。

3入所施設にあっては、上記の支援内容を行いつつ、全利用者が地域移行の対象者としてその可能性について、支援計画のなかで検討を行ってきました。グループホームの整備計画との連動は実現することはできず、今後の課題としたいと思います。

(2) 通所事業所（生活介護事業）

ア くるみの森

令和6年度利用者42名でスタートしています。8月に1名、9月に1名それぞれ新たなチャレンジを希望され契約終了しています。うち1名の方については就労継続B型の他事業所へ移行され、電話相談、月一度の面談、移行先事業所との連携などでアフターフォローを継続してきました。後期の実習では特別支援学校高等部3年生1名を受け入れましたが、送迎などサービス面で調整が難しく利用には繋がりませんでした。10月以降利用者39名での運営を行っています。

引続き、製菓、製パン、コーヒー等の商品作りをメインに、幅広いニーズに対応できるよう自主製品等も試作を行っています。初めて参加する外部イベントでの外販売等にも取り組みました。コロナ以降中止していた宿泊旅行や各行事、運動プログラムなども積極的にいき、利用者企画の活動も実施しました。年度途中より利用者自治会を発足し、より利用者が主体となって活動できるように支援に取り組んでいます。

イ ひかりの園（生活介護）

令和5年は、利用者64人で運営を開始しました。年度中に、入所施設への移行や機能低下による他事業所への移行等があり、3名退所しました。秋に特別支援学校高等部3年生の実習を受け入れましたが、利用にはつながりませんでした。

活動は、製菓、製パン、麦茶パック作り等の製造作業と、リサイクル活動、農園芸、陶芸、軽作業といった活動に取り組みました。新商品の開発も積極的に進め、好評をいただいています。また、作業活動に偏ることなく、余暇活動、季節行事、運動等の提供もいき、利用者の生活の幅を広げられるように心がけました。

ウ 十日市場ワークステーション・あおばのギャラリー

ご自宅から通所される方が中心であり、これまで以上に、ご家族とのコミュニケーションを深め、ニーズの把握に努めました。生産活動では、作業内容や工程の工夫により多くの方が「働く」活動に関わることができました。

また、併設する「あおばのギャラリー」では近隣の保育園や法人内事業所と連携し、絵画展の開催や講師の派遣を行いました。季節に応じてワークショップ等の独自事業を行いましたが、広報不足もあり、広く地域に周知されるには至りませんでした。引き続き、横浜北部地域における障害児・者の芸術文化活動支援の中核的役割を果たせるよう努めてまいります。

エ ワークステーション・ポパイ

機能低下を呈する方へのケアとして、口腔ケアを含む栄養管理や身体機能、仲間との交流に重点を置きながら活動を提供してきました。音楽や運動、創作活動や感覚活動では仲間との交流を意識しながら集団での活動を行いました。栄養管理については、嚥下外来の往診により食形態や食事の姿勢についてアドバイスを受け、嚥下機能の維持や十分な栄養摂取に配慮しました。身体機能への支援については、PT 等の専門職との協働には至りませんでした。今後の課題としたいです。

オ ワーク中川

2024年度は2名の新規利用者を迎えてスタートしました。感染対策は継続しながらも、様々な活動を行いました。生産活動においては、店舗の通常営業や外部販売、イベントへの参加等積極的に行い、生産量を増やして対応しました。また、余暇活動としては、班ごとの外出を再開した他、宿泊旅行や全体外出等も実施することができました。

職員のスキルや人権意識の向上に向けては、外部研修への参加の機会を増やし、施設内での講義やグループワーク、動画視聴等による様々な研修を行いました。また、自立支援協議会等を通し、地域の様々な機関との連携、協力体制の構築を行いました。

安全・清潔で使いやすい環境づくりとして、利用者、職員共に気持ち良く生活・活動を行えるよう、適宜修繕や定期的な業者による清掃を行いました。

利用者・職員の体調管理として、定期的な健康診断の実施の他、日々の検温等の健康観察や手洗い等を徹底しました。

適切な人員配置に関しては、年度途中で退職により欠員が出ることもありましたが、適宜職員の補充や配置の見直しを行い、対応しました。

特別支援学校の実習生3名を受け入れ、内2名が2025年度新規利用を希望しました。

カ 道

グループホームや各事業所と協力・連携を図り、商品の販路拡大をすすめました。大きな収入増には至りませんが、利用者の気力・体力等考慮しながら取り組むことができました。作業活動、余暇活動とも利用者の好きな事、得意な事をいかして能動的に活動へ取り組めるよう工夫を凝らした結果、当初目標の年間稼働率90%を達成しました(91%)。

職員においては、欠員や入れ替わりがなく、利用者との関係をさらに深めることができました。

(3) 通所事業（就労継続支援 B 型事業）

ア 横浜光センター（生活介護併設）

令和 6 年度は年度途中に 1 名の利用者を迎えて 39 名となりました。大きな天候の崩れや感染症の拡大等も見られず、安定した通所率でした。作業面では点字の売り上げが前年を超え忙しくなりましたが、担当だけでなく周りの職員の協力もあり全体で取り組みました。利用者の状況は年々高齢化・重度化してきており、ご家庭や関係機関と連携しニーズの把握などに努めました。令和 7 年度はクラブ活動を再開予定です。作業活動・余暇活動共に充実させメリハリのある 1 年にしていきます。

イ SELP・杜（生活介護併設）

令和 6 年度は特別支援学校より新規利用者 3 名を迎え、167 名の利用者と活動を行いました。

就労支援会計については、既存の販売先に加えて地域企業での定期販売やイベント販売などが増え、活発な生産販売活動を行いました。また、消耗品の見直しや廃棄商品の確認等を行い支出を抑えた結果、昨年度に比べて収入は微減でしたが、収支は改善しました。一方、長引く原材料費高騰による支出の増加、学校給食注文の減少等、依然として厳しい状況が続いており、利用者工賃日額については 800 円の現状維持となっています。

地域との交流については、福祉教育・啓発の機会として積極的に取り組みました。コロナ禍で中止していた地域に向けての体験教室や見学会の再開の他、近隣小学校と連携を深め、年間を通して見学会、各部門の宣伝ポスター作り、ボッチャ交流会等を行いました。

余暇支援やイベントについては、地域に向けて実施したありがとう祭り・陶芸展や伊豆下田での全体旅行、ホテルのレストランでの盛装着用の忘年会や栄公会堂での各クラブの発表会など様々な企画を実施しました。

職員研修については、「虐待防止研修」「感染防止研修」「災害時 BCP 研修」など必須の研修を計画的に実施しました。また、支援力向上のため新任職員を中心に基礎研修を実施した他、今後利用者の高齢化・重度化へ対応していくため、副主任の他事業所見学及び現場実習を行いました。

運営面については、SELP・杜のエレベーター入替工事、経年による設備修繕や機器更新について適宜実施しました。児童施設卒園後の日中活動の場の確保、利用者の高齢化や定員超過の状況を考慮して 40 名規模の新規施設整備計画（就労継続支援 B 型と生活介護の多機能型事業所）を検討していましたが、事業用地候補先との交渉が難航し、開設には至りませんでした。建築費の高騰、人材確保等、様々な状況を考慮しながら開設を検討していきます。

(4) 地域活動ホーム

すてっぷ・あおぞら

法人型地域活動ホームとして『日中活動事業』『生活支援事業』『相談支援事業』を柱に事業を展開しています。「あおぞら」では、ライフデザイン講座（区連携事業）やみどりコスモスフェスタ（地域交流事業）を開催し、「すてっぷ」では、地域向けのお祭りの開催（地域交流事業）、あおばエール、ふれあい福の市（区関係事業）などを通じて、多くの方に啓発や周知を行うことができました。

緑区・青葉区共に基幹相談支援センターを中心に運営する自立支援協議会をはじめ地域ケアプラザとの連携など、連携体制の強化を図りました。また障害者週間と連動してスタンプラリーなど地域と連携した取り組みを進めました。その他にも障害のある方の高齢化、重度化、親なきあとの生活に備えるため、地域生活支援拠点の整備も引き続き進めています。

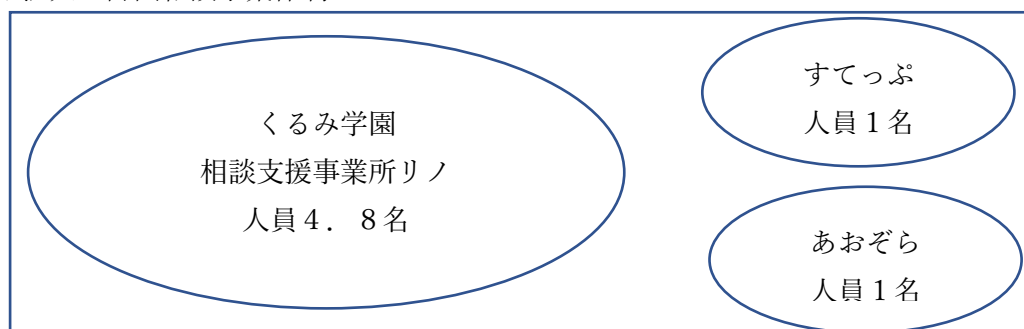
- 日中活動事業では、新商品の開発や個別活動等、充実した活動を提供します。商品の販売を通して地域との繋がりを作ります。また相談支援と連携して、保護者支援（ニーズの把握と情報提供等）を行いました。
- 一時ケア・ショートステイ事業では、多様なニーズに対応して受け入れを行いました。新型コロナウイルスの5類移行後、利用される方も着実に増加しています。感染対策を継続しつつ「安心・安全」に受け入れを行っています。
- 計画相談事業では、区内の計画相談事業所との連携の中心となり、新規ケースの受け入れや課題を共有しながら支援を進めました。緑区・青葉区共に地域の計画相談事業所の撤退があり、利用者の受け入れや他事業所との調整を行っています。
- 基幹相談支援センター（緑区基幹相談支援センター、青葉区基幹相談支援センター）では、障害のある人やその家族のための総合相談支援機関として機能した他、区福祉保健センターや精神障害者生活支援センターと連携し、区自立支援協議会運営をしています。様々な相談にお応えするとともに地域の方や関係機関等とも連携し地域づくりに取り組むことができました。
- 各事業の対象者は幅が広く、多様なニーズに応えていくために、支援職、相談職共に支援スキルの向上を目的とした事例検討、ケース検討、e - ラーニングなどの研修、学習の機会を提供しました。また事業所強化として人材の育成を目的としたヒューマンスキル向上に向けた取り組みを実施しました。
- 修繕計画1：「あおぞら」の大規模修繕（外壁等）については、法人にて全体の進行管理を行うことになり、令和7年度の実施に向けて今年度設計を終えました。令和7年度の工事を行うため、国庫補助金の協議のための手続きに入っています。
- 修繕計画2：「あおぞら」の空調機器（GHP）更新工事については、購入業者、リース会社の選定を終え、2025年5月から更新工事が開始します。

○すてっぷでは、B 2 階部分(青葉台ケアプラザと共有)の LED 工事を実施しています。

(5) 相談事業

障害者総合支援法では「相談支援」は、基本相談支援、地域相談支援及び計画相談支援が位置づけされています。地域の様々なニーズ把握の窓口として活動をして参ります。また、ル・プリとして各相談事業の連携を図り、障碍福祉事業の中核を担います。

◆法人の計画相談事業体制



ア 計画相談支援（相談支援事業所リノ）

令和 5 年度に 6 か所の施設に分かれていた相談事業所を、活動ホーム 2 か所を除いた 4 か所をまとめ、旭区金が谷（くるみ学園）地区の 1 か所にてル・プリ「相談支援事業所リノ」としての相談事業の拠点化を行いました。引き続き日常業務や相談員会議の中で、利用者支援の情報共有や、ル・プリとしてのよりよい計画相談の在り方を模索し、相談支援機能の充実に努めます。

また安定的な経営、収支状況を確立するために、各書式の整理、請求業務におけるシステム作りも強化していきます。

相談員会議

今まで一人の相談員としての悩み多き仕事であったが、同じ事業所の一員となることで、定例のオンライン会議、職員会議を行い、困難ケースや制度、地域資源等の情報共有を密に行い、相談支援専門員としての資質向上に努め、地域からの多様な利用者ニーズに応えられるよう更なるコーディネーター力の向上を図っています。また、区役所、基幹相談支援センターや自立支援協議会との連携を強化し、各事業所が所在する区域の相談支援体制づくりに寄与します。

- 1 児童施設に在籍する子どもたちの進路選択について児童相談所や学校などの教育機関と情報共有に努めてまいります。特に卒業後の進路選択が本格化した段階で、相談員の介入を図り、より円滑に成人期への移行を行なえるよう計画相談開始に向けた準備を進めていきます。

- 2 近隣地域に住まれている障碍をお持ちの方たちのニーズを把握し、解決に結びつくような活動とサービスを検討します。それらの取り組みを通して地域の障碍福祉の拠点となるよう努めていきます。

イ 2次相談（青葉メゾン）

地域で生活する障碍のある方やそのご家族の意向を丁寧に聞き取り、個別性を大切にした支援を展開してきました。ニーズを汲み取ることで、短期入所などのサービス利用へと繋げることができました。また専門的な相談機関として必要に応じて他機関との連携を図りながら利用者の相談等に応じてきました。

奈良障害者ショートステイセンターとの連動によるミドルステイ事業については、今年度2件の実施となりました。地域生活の継続に向けた環境調整や短期療育へと繋げる事が出来ました。

ウ 基幹相談支援センター（緑区・青葉区）

緑区基幹相談支援センターでは総合相談件数が1409件でした。障碍別では8割が知的障碍となっていますが、最近では発達障碍の方の相談件数が203件と増加傾向となっています。また18歳以下の相談は121件と、教育機関からの相談依頼も多い傾向が続いています。

青葉区基幹相談センターでは、総合相談件数が1188件でした。障碍別では約半数538件が知的障碍ですが、405件が精神障碍と増加傾向にあります。また18歳以下の相談が177件あり学齢期の相談件数も増加傾向です。

相談の内容では緑区が「福祉サービスの利用等に関する支援」が半数を占めているのに対し青葉区では「不安の解消・情緒安定に関する支援」が半数を占めており、区によって傾向の違いがあります。区の特徴に合わせた相談支援の実践ができるように努めました。

また基幹相談支援センターの役割として取り組みや自立支援協議会の運営を実施しました。

取り組み内容

- 総合的・専門的な相談支援
- 地域の相談支援体制の強化の取り組み
- 地域移行・地域定着の促進の取組
- 権利擁護・虐待の防止の取り組み
- その他地域の状況に応じた独自の取り組み
- 地域生活支援拠点機能の整備に向けた取り組み

（6）障碍者グループホーム

ア 西部エリア障害者グループホーム

ホルツハウゼ、ひかりの園、横浜光センターをバックアップ施設として、現在２２ホーム、定員１１３名で運営をしています。

今後の利用者において多種多様な生活スタイルの選択肢に応えるために、経年劣化が想定される住環境の整備を行い、特に契約満了時期であるホームの移転に伴い、家主または業者とも協議の場を設けることが出来ました。継続的に必要な設備における修繕箇所の交渉、今後の移転計画案については共有することが出来ました。しかし移転先の候補先は見つけることが出来ませんでした。

またハード面での整備だけでなく、障害分野の部門間でも検討を重ねながらグループホームの経営や運営体制、支援の実情など把握し、入居者全体の特徴や運営面での課題点など各エリアをまたいで課題を共有することが出来ました。それをもとに、エリア内にてGH連絡会を設け、今後の共通課題について検討する場を設けました。

その中でも職員の確保と人材育成が急務であり、支援の質の向上のための法人内研修、外部で主催される対人援助や虐待研修、施設間交流研修なども積極的に参加することが出来ました。特に行事における職員交流、他の施設の見学などを行い、人事交流の土台となりました。そして継続的な課題として児童期の受け皿、成人期における親なき後の住まいの場の位置付けを考え、成人移行会議、ワーキング部会での話し合いの場の設定し、個別でのケースカンファレンスを通じて地域移行の取り組みを行いました。改めて地域連携のあり方や社会資源の開発に努め、児童部門とのアフターフォローでの連携、相続や年齢に伴う後見人制度の活用相談なども関連機関と行うことも出来ました。

イ 北部エリア障害者グループホーム

青葉メゾン、ワーク中川、道をバックアップ施設として、２３ホーム、定員１１３名で運営しました。支援面では、入居者の方々が地域生活を豊かに営めるよう、季節に応じた行事や外出など、様々な取り組みを行ってきました。地域の防災訓練にも参加し、地域との繋がりを深める事が出来ました。また、運営面ではホーム間のバックアップ体制を構築し、支援の固着化防止に努めました。

訪問診療、訪問看護の利用も少しずつ定着してきましたが、緊急時の対応で見解の相違があった為、訪問診療、訪問看護の契約先を変更し緊急時の対応を再確認しました。

次年度も各ホームの地域性や入居者の個別性に沿った生活を構築していきます。

ウ 南部エリア障害者グループホーム

SELP・杜および杜の茶屋をバックアップ施設とし、１４ホーム（７か所）の住居を一体的に運営しています。新しい「谷・絆」を設置して２年が経過しています。

事業運営について、職員の労働環境整備が進む一方で必要な夜勤者を欠く状況が続

き、収支が急速に悪化しました。職員の補充をすることができず、欠員は年度末まで解消できませんでした。職員の業務負荷が大きくなり、他事業所から職員の応援を得ることも常態となり、入居者の暮らしにも影響がありました。まずは職員体制を整え、現員によってできる範囲の支援および業務となるように再構築し、安定した事業運営に戻すことを求められています。

入居者支援について、旅行や忘年会、誕生日会は、コロナ以前と同じかたちで実施することができた一方で、個別の外出や遊びは、ガイドヘルパー事業所が無いこと、対応できるスタッフを配置できないことにより制限が多くありました。また、個別支援では、入居者の老いを意識しながら支援内容を見直すことが増えました。

（７）在宅生活支援

平成14年度からガイドヘルプ事業を中心に、利用者の余暇の充実と生活の安定に向けて支援を継続してまいりましたが、コロナウイルスが与えた影響が大きく、事業再開の見通しが立たないため令和6年度も引き続き事業を休止しています。

（８）知的障害者自立生活アシスタント事業、自立生活援助事業

ア 青葉メゾン

障害者自立生活アシスタント事業と並行する形で、自立生活援助事業を実施してきました。実績としては契約者0名でありましたが、標準利用期間がある事業として、自立生活アシスタント事業の終結期での活用など、事業としての整理を行っていきたいと考えています。

障害者自立生活アシスタント事業においては、1名が登録解除、2名が相談終了となりました。現在の登録者の多くは50歳代、60歳代であり、医療・健康面での相談に応えながら、単身での地域生活を支えてきました。

イ SELP・杜（杜の地域生活支援室）

利用者が抱える個々の背景や状況に寄り添い、利用者中心のアセスメントを行いながら希望の実現や課題の解決を目指していきます。

利用者のライフステージ、個々の背景に合わせた丁寧な支援を行えるように、区役所、地域の相談支援機関やサービス事業所等と連携をして支援を実施しています。自立生活アシスタント新規ケースでは本人や家族が困りごとを実感していないことがあり、関係機関と協力しながら、利用者との信頼関係構築や困りごとを共有していけるように取り組んできました。アウトリーチ支援では、なかなか本人に会えない状況があり、生活支援課困窮担当SWや生活支援センター自アシ等と協働・検討しながら支援をしています。

(9) 横浜市後見的支援制度

青葉区後見的支援室ほっぷ

障碍のある人が住み慣れた地域で安心して、自分らしく生活していけるようお手伝いをする横浜市独自の制度です。

- ・身近な地域における本人の見守り体制の構築については、青葉台ケアプラザと連携した取り組みを実施し、地域の方への啓発活動を進めました。
- ・本人の思いに寄り添い希望に基づく生活の実現をともに考えること

以上の役割を担うためにあんしんサポーターによる定期的な面談、そして本人を見守るあんしんキーパーの開拓の取り組み（あおばエール）を行った結果、あおばエール協力店が増加しキーパーの増員に繋がりました。

北部エリア

令和５・６年度入職 新人研修	令和６年４月、５月、７月、 ９月、１２月、令和７年１ 月、３月	基礎知識の習得
令和１～３年度入職 中堅職員研修	令和６年４月、６月、７月、 １０月、１１月、１２月、令 和７年１月、３月	ストレングスアセスメン ト、事例検討 権利擁護等
副主任以上	令和６年４月、５月、７月、 ９月、令和７年１月、３月	意思決定支援について学ぶ

西部エリア

新人研修	令和６年５月、６月、７月、 ９月、１０月、１２月、２月、３ 月	仕事の基本、権利擁護、ロー ルプレイ、虐待防止、施設処 遇、施設職員の役割、トラウ マ、障害とは・施設処遇②
中堅職員研修（中堅２年 目から５年目対象）	令和６年６月、７月、８月、 １０月、１１月、１２月、１月、 ２月	自閉症について、ダウン症 児の心理・発達、知的障害 児者の心理、支援者のセル フケアについて、障害児者 のための制度
副主任以上	令和６年５月、７月、１０月	虐待防止（暴力）防止サポー ト研修

南部エリア

・新採用職員

令和７年４月入職 南部エリア職員研修	令和７年　３月　３日	南部エリア概要説明、事業 所見学、所属長顔合わせ
-----------------------	------------	-----------------------------

・中堅職員（エリア内各事業所見学研修）

①杜の郷子ども家庭支援 センター	令和６年１０月１１日 １０月１８日	杜ちやいんど保育園見学実 習
②かさまの杜保育園	令和６年　６月 令和７年　３月	SELP・杜見学(職員２名) (職員４名)
	令和７年　３月	子ども家庭支援センター
		見学(職員２名)
	令和７年　３月	ふれあい塾見学(職員２名)

	令和7年 3月	杜の郷見学(職員2名)
③SELP・杜職員(副主任)	令和6年11月15日 29日	青葉メゾン外出同行研修
	令和6年12月24日	本部障害施設・事業所見学

・全職員

個人情報保護研修		
①日下地域ケアプラザ 全職員	令和6年 5月・6月	個人情報保護に関する法律の理解とケアプラザにおける防止チェックシート実施
②中野地域ケアプラザ 全職員	令和6年 5月～8月	個人情報保護について
③小規模多機能居宅介護事業「晴」全職員	令和7年 3月	栄区福祉保健課出張講座
	令和6年 4月24日	個人情報保護、プライバシー保護、資料により確認
④らいふけあ中野 全ヘルパー	令和6年 4月15日	個人情報保護、プライバシー保護、資料により確認
⑤杜の地域生活支援室 自立生活アシスタント	令和6年 5月	個人情報保護に関する研修
身体拘束等禁止・虐待防止研修		
①南部エリア全職員	令和6年 6月21日 11月29日	アンガーマネジメント研修(外部講師) ※参加できなかった事業所、職員は動画視聴にて2月末までに実施
②日下地域ケアプラザ 職員	令和6年 6月	身体抑制に関する法令から現場の適切な対応を学ぶ。(通所介護)
③中野地域ケアプラザ 居宅及び通所介護全職員	令和6年 1月	支援者としての虐待の理解・対応。港南区社会福祉士分科会の支援により研修開

		催。(全職員)
	令和6年 7月・8月	虐待防止(社会福祉士講師)
④小規模多機能居宅介護事業「晴」全職員	令和6年 7月25日	身体拘束等禁止・虐待防止資料により確認
⑤らいふけあ中野 全ヘルパー	令和7年 3月17日	高齢者の虐待防止について(ヘルパーの通報義務の周知確認)身体拘束等禁止・虐待防止 資料により確認
⑥杜の郷全職員 ※虐待防止、権利擁護研修	令和6年 9月5日 令和6年 9月13日	虐待の影響とアドボカシーの理解。不適切な支援や虐待事例、ケースワークの視点を持つ重要性を学ぶ(外部講師)
⑦かさまの杜保育園	令和7年 1月	栄区虐待防止研修(暴力コミュニケーションの撲滅)
⑧SELP・杜全職員	令和6年 7・8・9月 (SELP・杜、杜の茶屋各3回)	身体拘束禁止、虐待防止研修
⑨グループホーム空 全職員	令和7年 2月	虐待防止法、ロールプレイ(外部講師)
⑩杜の地域生活支援室 自立生活アシスタント	令和6年 9月	虐待防止研修(栄区自立支援協議会開催)
人権・権利擁護研修		
① 中野地域ケアプラザ 全職員	令和6年11月	人権・権利擁護についてオンデマンド研修(外部講師)
② かさまの杜保育園	令和6年 6月	子どもの権利条約・児童福祉法からの子どもの人権について
	令和6年 9月	不適切保育とは何か?実践を振り返り環境構成を見直す

③ 杜ちやいど保育園	令和6年 7月	保育における子どもの人権を再確認し、人権意識の向上をはかる
------------	---------	-------------------------------

実施月	研修テーマ	研修内容	参加対象職種（人数）
各事業所の主な個別研修実績			
・ 日下 CP（4 月）	通所介護業務 に関わる基礎 技術	・ コミュニケーション研 修 ・ 介護技術（身体介助、 車いす操作、排泄介助、 入浴介助、食事介助）	【新任】 通所介護・介護員 （2）
・ 日下 CP（4 月）	制度改正研修	制度改正の理解	【新任～中堅】 ケアマネジャー（4）
・ 日下 CP（5～10 月）	コーディネーター研修	コーディネーターの役割を知る	生活支援 CO（1）
・ 日下 CP（5 月）	障害者支援	障害者施設の見学	【新任～中堅】 ケアマネジャー（1）
・ 中野 CP（5 月）	パーキンソン 病とその関連 疾患の基礎知 識	パーキンソン病 進行性核上性麻痺 大脳皮質規定核変性症 多系統萎縮症	ケアマネジャー（1）
・ 奈良 CP（4 月）	言語聴覚士 （ST）につ いて	在宅での ST の役割、リ ハビリの進め方等	【中堅】 ケアマネジャー（1）
・ 青葉台 CP（5 月）	地域ケアプラ ザ施設利用マ ニュアル	横浜市地域ケアプラザ施 設利用マニュアル説明会	生活 Co（1） サブ Co（1）
・ 奈良 CP（5 月）	高齢者医療	高齢者が陥りやすい症 状、予防ケア、医療職と の連携	【中堅】 ケアマネジャー（1）
・ 青葉台 CP（5 月）	生活支援体制 整備事業	新任者研修	生活 Co（1）
・ 青葉台 CP（6 月）	成年後見制度	中核基幹成年後見担当職 員研修会	包括職員（1）
・ 青葉台 CP（6 月） ・ 奈良 CP（6 月） ・ 中野 CP（6 月） ・ 日下 CP（6 月）	介護予防支援	介護予防ケアマネジメン ト業務研修	包括職員（4） ケアマネジャー（1）
・ 日下 CP（7 月）	事故対応	事故の発生予防再発防止	通所介護（20）
・ 中野 CP（7 月）	認知症の行動 心理症状の予	認知症の行動心理症状の 予防するコミュニケーシ	ケアマネジャー（1）

	防	ヨシ	
・青葉台 CP（7 月）	認知症サポーター	認知症サポーター養成講座説明会	包括職員（1）
・青葉台 CP（7 月）	ネット依存	ネット依存の理解と支援 予防から依存の支援まで	サブ Co（1）
・青葉台 CP（7 月）	介護報酬改正	介護報酬改正で変わった こと 介護現場に求めら れる組織作り	居宅管理者（1）
・日下 CP（7 月）	フレイル予防 研修	横浜版フレイル予防につ いて	包括/看護師（2）
・日下 CP（7, 1 月）	権利擁護研修	基礎理念と業務内容につ いて・地域連携ネットワークの 実践・申し立て支援研修	包括/社会福祉士 （1）
・中野 CP（8 月）	高齢者虐待防 止連続研修	家族支援の実践～家族シ ステムとその活用	ケアマネジャー（2）
・日下 CP（9～1 月）	相談初任者研 修	障がい者の相談支援の 理解	【中堅】 ケアマネジャー（1）
・中野 CP（9 月）	ご本人とつく るケアマネジ メントの方法	自己決定・意思決定をと るに考えよう	ケアマネジャー（1）
・中野 CP（9 月）	これだけは知 っておきたい てんかんの医 療	てんかんの知識	ケアマネジャー（1）
・奈良 CP（8、9 月）	成年後見	利用促進基本計画の動 向、申し立て時の留意点	【中堅】 包括/社福士（3）
・奈良 CP（9 月）	精神疾患につ いて	精神疾患の基礎知識、対 応方法	【中堅】 ケアマネジャー（1）
・中野 CP（9 月）	肺の寿命につ いて	肺の病気や喫煙のリスク について学ぶ	ケアマネジャー（5）
・青葉台 CP（9. 10 月）	CP コーディネ ーター共通研 修	基礎編	生活 Co（1）
・日下 CP（10 月） ・中野 CP（10 月）	生活支援体制 整備事業研修	地域共生社会について生 活支援体制整備の役割	生活支援 Co（1）
・晴（10 月）	地域資源につ	中野地域ケアプラザのエ	【中堅】

	いて	リア内の地域資源を知る	介護員・看護師 (10)
・ 日下 CP (10 月)	障碍制度の理解	後見的支援制度の理解	【新任～中堅】 ケアマネジャー (4)
・ 日下 CP (10 月)	安全な介護	新しい転倒骨折防止対策	通所介護 (20)
・ 中野 CP (10 月)	フレアス勉強会	脊柱管狭窄症を学ぶ	ケアマネジャー (8)
・ 奈良 CP (2 月)	ユマニチュード研修	在宅高齢者の「優しさを伝えるケア技術：ユマニチュード」について	【中堅】 介護員 (1)
・ 青葉台 CP (9-11 月)	介護支援専門員	更新研修	居宅管理者 (1)
・ 奈良 CP (10 月) ・ 中野 CP (10 月)	ヤングケアラー	ヤングケアラーの現状と課題、世帯支援	【管理者】 居宅介護・管理者 (2)
・ 晴 (10 月)	地域資源について	中野地域ケアプラザのエリア内の地域資源を知る	【中堅】 介護員・看護師 (10)
・ 中野 CP (11 月)	これからの生活支援体制事業	これから求められる生活支援体制事業の在り方	生活支援 Co (1)
・ 中野 CP (11 月)	ICT 活用	ケアマネジャーの ICT 活用のポイント	包括 (1)
・ 中野 CP (11 月)	心のサポーター養成研修	メンタルヘルスやこころの病気に関する正しい知識	包括 (1)
・ 中野 CP (11 月)	8050 問題を抱える家族支援	80550 問題を抱える家族へ関わる専門職連携について	包括 ()
・ 日下 CP (11 月) ・ 青葉台 CP (11 月)	カスタマーハラスメント研修	苦情対応・カスタマーハラスメント（ハードクレーム）への対応 カスタマーハラスメントから支援者を守る	【管理者】 居宅介護 包括職員 (1)
・ 晴 (11、12 月)	他事業所見学	社会福祉法人秀峰会が運営する区内の小規模多機	【中堅】 介護員 (7)

		能施設を見学	
・晴 (11 月)	ターミナルケア研修	医師から介護・看護職のためのターミナルケアについての講義	【中堅】 介護員 (1)
・中野 CP (11 月)	社会福祉士実習指導者講習会	実習指導概論 マネジメント論ほか	包括 (1)
・目下 CP (12 月)	多職種連携研修	他事業所との合同事例検討	【中堅】 ケアマネジャー
・奈良 CP (12 月)	A C P (人生会議)	A C P とは、業務の中で の本人意向確認・意思決定支援について	【中堅】 ケアマネジャー (2)
・中野 CP (12 月)	医療除外行為研修	介護職員が行える医行為について	【新人】 ケアマネジャー (1)
・目下 CP (6 月) ・青葉台 CP (12 月)	包括的・継続的ケアマネジメント	ファシリテーションを生かした会議運営について 多職種連携	【中堅】 包括職員 (3)
・中野 CP (12 月)	地区概況シート勉強会	地区概況シートの見方と活用方法	包括 (1) 生活支援 Co (1)
・中野 CP (12 月)	ケアプラン点検研修	ケアプラン点検の概要について	【管理者】 居宅介護・管理者 (1)
・青葉台 CP (1 月)	アンガーマネジメント	アンガーマネジメント研修	包括職員 (5) 居宅職員 (3)
・奈良 CP (1 月)	ターミナルケア	死にゆく人の身体・心理的变化、ターミナルケア・看取りケアについて	【中堅】 ケアマネジャー (1)
・中野 CP (1 月)	社会福祉士としてどう動く？申し立て支援について学ぶ	権利擁護、成年後見制度について	【中堅】 包括 (1)
・奈良 CP (2 月)	高次脳機能障害	脳の病気について、高次脳機能障害とリハビリテーション	【中堅】 ケアマネジャー (1)
・奈良 CP (2 月)	ユマニチュー	在宅高齢者の「優しさを	【中堅】

	ド研修	伝えるケア技術：ユマニ チュード」について	介護員
・中野 CP（1 月）	相談援助技術	ケアマネジャーに求めら れる相談援助技術を学ぶ	ケアマネジャー（5）
・日下 CP（1～3 月）	ファシリテーション研修	ファシリテーターの役割等	地域交流・生活支援 CO （2）
・中野 CP（2 月）	今こそ求めら れる介護予防	介護保険制度を正しく理 解する	包括（1）
・らいふけあ（2 月）	病気・薬の知 識	高齢者の病気・薬につい て学ぶ	【新人～中堅】 サ責、訪問介護員 （4）
・晴（2 月）	中重度要介護 者への対応	介護度の維持改善、潜在 能力を引き出す介護技術	【中堅】 介護員（1）
・奈良 CP（3 月）	難病患者支援	難病へのケアマネジメン ト、難病のある方が利用 できる障害福祉サービス について	【中堅】 ケアマネジャー（1）
・奈良 CP（3 月）	スーパービジ ョン研修	協働支援体制の中での尊 厳の尊重について、退院 前カンファレンスを題材 としたロールプレイング	【中堅】 ケアマネジャー（1）
・晴（3 月）	多職種向け研 修会	すぐに実行できそうな血 糖コントロールによい食 事	【中堅】 看護師（1）

各事業所の全体研修一覧

・奈良 CP（2 月） ・青葉台 CP（2 月） ・中野 CP（10, 1 月） ・日下 CP（7, 8, 9 月） ・晴（12 月） ・らいふけあ（3 月）	虐待防止・身 体拘束の排除	高齢者虐待防止の知識、 事例検討等（原因とその 予防）	・奈良 CP（全職員） ・青葉台 CP（全職員） ・中野 CP（全職員） ・日下 CP（全職員） ・晴（全職員） ・らいふけあ（全職 員）
・奈良 CP（6 月） ・青葉台 CP（5 月） ・日下 CP（3 月）	防災・BCP	自然災害発生・感染症発 生時における業務継続計 画（BCP）について	・青葉台 CP（全職員） ・奈良 CP（全職員）
・奈良 CP（4 月）	個人情報保	法律の知識、個人情報漏	・奈良 CP（全職員）

・青葉台 CP (4・3 月) ・中野 CP (5～8 月) ・日下 CP (4. 6. 7 月) ・晴 (4 月) ・らいふけあ (4 月)	護・プライバシー保護	洩の予防方法、現場におけるプライバシー保護	・青葉台 CP (全職員) ・中野 CP (全職員) ・日下 CP (全職員) ・晴 (全職員) ・らいふけあ (全職員)
・奈良 CP (4 月) ・青葉台 CP (4 月) ・中野 CP (8 月) ・日下 CP (4. 6 月) ・晴 (4 月) ・らいふけあ (4 月)	倫理・法令遵守	職業倫理と法令理解の必要性	・奈良 CP (全職員) ・青葉台 CP (全職員) ・中野 CP (全職員) ・日下 CP (全職員) ・晴 (全職員) ・らいふけあ (全職員)
・奈良 CP (12 月) ・青葉台 CP (1 月) ・中野 CP (11 月) ・日下 CP (6. 8. 9 月) ・晴 (10 月) ・らいふけあ (6 月)	認知症関連	認知症理解・認知症ケア	・奈良 CP (全職員) ・青葉台 CP (全職員) ・中野 CP (全職員) ・日下 CP (全職員) ・晴 (全職員) ・らいふけあ (全職員)
・奈良 CP (10 月) ・青葉台 CP (9 月) ・中野 CP (10 月) ・日下 CP (6. 10. 3 月) ・晴 (6. 11 月) ・らいふけあ (1 月)	感染症関連	感染症の種類と食中毒の発生事例等	・奈良 CP (全職員) ・青葉台 CP (全職員) ・中野 CP (全職員) ・日下 CP (全職員) ・晴 (全職員) ・らいふけあ (全職員)
・奈良 CP (8 月)	リスクマネジメント	訪問時未応答等の事例をもとにグループワーク	・奈良 CP (全職員)
・青葉台 CP (3 月) ・中野 CP (9 月) ・日下 CP (7, 8 月)	人権・権利擁護	人権について・救済制度等	・青葉台 CP (全職員) ・中野 CP (全職員) ・日下 CP (全職員)
・青葉台 CP (1 月)	ヤングケアラー	ヤングケアラー研修	青葉台 CP (全職員)
・青葉台 CP (5 月)	AED について	AED の操作、救命の流れ	・青葉台 CP (全職員)

【児童福祉部門】

ポート金が谷 サウウエスト金が谷

【外部研修】

実施月	研修テーマ	研修内容	参加対象職種 (人数)
毎月	心理士コンサルテーション	心理士グループによるスーパービジョン	心理士（１）
年１０回	虐待防止研修	権利擁護及び養育者としての関わり	全職種（１５～２６）
年５回	糸口探しの会	西部児相エリア職員による事例検討（毎月）	保育士（１）
６月	新人研修	社会的養護の基礎研修	保育士児童指導員（２）
６月	全養協セミナー	養育権利擁護	保育士児童指導員（２）
４月	会議の在り方研修	会議の進め方	全職種（１５～２６）
４月	トラウマ研修	愛着とトラウマケア	施設長（１）
５月	全国自立援助ホーム長研修	自立援助ホーム機能向上について	ホーム長（１）
８月	児童施設職員向け研修	施設の取り組み全般	保育士（１）
８月	会計研修	不正と誤謬と内部統制	施設長（１）
９月	看護研修	服薬管理について	看護師（１）
１０月	組織力現状診断セミナー	職員定着率を高めるための点検及び課題発見	施設長（１）
１０月	専門分野研修	関りの中で支援者に湧き上がってくる感情について	保育士、心理士他（７）
１０月	全国施設長研修	社会的養護機能向上について	施設長（１）
１０月	看護研修	看護訪問の活用	保育士（２）
１１月	コンサルテーション	医療機関によるコンサルテーション	保育士、心理士他（７）
１１月	施設長研修	社会的養護を担う管理者の資質向上	施設長（１）

1 月	中堅職員チームリーダー研修	施設の中堅的役割を担う職員のスキルアップ	保育士児童指導員（2）
2 月	施設見学	児童心理施設かなでの支援を知る	保育士、心理士他（8）
2 月	心理士会研修	性的虐待を受けたこどもの支援	保育士 心理士他（3）
3 月	里親支援向上研修	里親制度の理解向上	施設長（1）

【内部研修】

実施月	研修テーマ	研修内容	参加対象職種 (人数)
年7回	自己啓発・他者理解	自己意識を高め他者を理解する	1～3年目保育士児童指導員（6）
年10回	虐待防止研修	権利擁護及び養育者としての関わり	全職種（15～26）
年9回	初任者研修	障害、養護の基礎研修	保育士児童指導員（2）
7 月	人権研修	暴力防止サポート	保育士（1）
10 月	人権研修	こどもの権利について	全職種（26）
12 月	性教育研修	こどもへの性教育について	全職種（26）
2 月	組織力現状診断セミナー	職員定着率を高めるための点検及び課題発見	全職種（20）

杜の郷

【外部研修】

実施月	研修テーマ	研修内容	参加対象職種 (人数)
5 月	チーム・組織づくり研修	今いる職員でリーダーシップや役割を明確化することで、チームづくりに取り組む。	児童指導員(1)
6 月	包括的性教育	日々のこども達との生活をベースにしながら、こども達の性の学びを保障するために。	児童指導員(1)
6 月	児童養護施設内の性暴力、性支配、性虐待について	施設内の性的な課題について理解し、アタッチメントを軸にした性教育について学ぶ。	保育士(2)

6 月	法人アンガーマネジメント研修	対人援助職の怒りのコントロールについて学ぶ。	主任(1) 児童指導員(2) 保育士(1)
6 月	福祉施設の接遇	ホスピタリティを中心にした接遇マナーを学ぶ。	保育士(1)
7 月	3～5年フォローアップ研修	メンタルヘルスを中心に、後輩職員を迎え、チームとして仕事をしていく心構えを学ぶ。	児童指導員(1) 指導員(1) 保育士(2)
7 月	給食施設栄養管理研修	人間の体内時計に基づく生活の中で、食事の意義を学ぶ。	栄養士(1)
7 月	箱庭療法研修	箱庭の効果的な活用について。	心理士(1)
8 月	食品衛生責任者実務講習会	ノロウイルス等食中毒を出さないための取り組みの工夫。	栄養士(1)
8 月	全国施設職員勉強会（ZOOM）	施設内の性的問題を防ぐための性教育の取り組みについて。	心理士(1)
8 月	こども丸ごとを支援するために	社会的養護、子育て支援、保育等の枠組みを超えての連携支援について。	施設長(1) 主任(1)
9 月	児童養護施設リーダー養成研修	マネジメント、スーパーヴィジョン、メンタルヘルスの視点からのリーダーシップについて。	保育士(1)
10 月・11 月	新人職員研修	虐待防止、アドボカシーの理解。	児童指導員(1) 指導員(2)
10 月	アタッチメント研修	アタッチメント理論を現場で活かすために。	心理士(1)
10 月	法人新人フォローアップ研修	今年度の新採用職員が集まり、各事業所の実践報告とグループワーク。	児童指導員(1) 指導員(1)
11 月	家族支援を考える	精神疾患を抱える家族、家庭支援について学ぶ。	保育士(1)
11 月	社会的養護を担う児童福祉施設長研修会	社会的養護におけるこどもの育ちを考える。 職員採用、育成、定着について。	施設長(1)
12 月	こどもの権利について	こどもの意見表明権の保障、被措置児童虐待を防ぐために。	施設長(1)
12 月	乳幼児の性と性教	児童養護施設、保育園等の性教	保育士(1)

	育全国セミナー	育の実践報告会。	心理士(1)
1 月	こどもたちの生活を支える包括的性教育	生い立ちやこども理解、スマートフォン等の使い方を通して、自分を大切にするための生活の視点を学ぶ。	主任(1)
1 月	こどもの育ちを繋ぐために	乳児院から児童養護施設への連携の実践から学ぶ。	児童指導員(1) 指導員(1)
2 月	心理士会研修	性的虐待を受けたこどもへのかかわり方と性教育について。	心理士(1)

【内部研修】

実施月	研修テーマ	研修内容	参加対象職種 (人数)
4 月	トラウマとアタッチメント	こどもの心の発達を、阻害する要件と守る要件について学び、こどもにとってタッチメントの大切さを理解する。	全職員(27)
9 月	虐待防止とこどもの権利擁護研修	児童虐待の定義とその影響、こどもの意見表明（アドボカシー）の仕組みについて学び、施設職員の専門性を高める。	全職員(27)
9 月	人権擁護・虐待防止（福祉対象者の理解）	ソーシャルワークの視点、アセスメントの重要性を通して、一人ひとりの福祉対象者の理解を深める。	全職員(23)
10 月	組織・チームによる養育、愛着形成について。	合意と同意の違い。コンセンサス等について、グループワークを中心に学ぶ。	全職員(26)
11 月	組織・チーム養育について。階層別研修	リーダークラス以上の職員が、組織・チーム養育の中で果たす役割について考え、学ぶ。	リーダー以上 職員(10)
11 月	法人アンガーマネジメント研修	対人援助職の怒りのコントロールについて学ぶ	全職員(23)
12 月	組織・チーム養育について。階層別研修	1～3 年目の職員が、組織・チーム養育の中で果たす役割について考え、学ぶ。	1～3 年目職員 (6)
1 月	組織・チーム養育	4～9 年目の職員が、組織・チ	4～9 年目職員

	について。階層別研修	ーム養育の中で果たす役割について考え、学ぶ。	(7)
2 月	組織・チーム養育について。階層別研修	10 年目以上の職員が、組織・チーム養育の中で果たす役割について考え、学ぶ。	10 年目以上職員(9)
3 月	杜の郷の養育として大切にしているもの	虐待防止、こどもの権利擁護、組織・チーム養育として守り、大切にすることの整理、確認。	全職員(27)
5.6.9.10.1.2 月	事例・処遇検討会	一人ひとりの子ども理解を深め、養育実践に活かす。	全職員(20～27)

杜の郷児童家庭支援センター

【外部研修】

実施月	研修テーマ	研修内容	参加対象職種 (人数)
10 月～3 月 (3 回)	スキルアップ研修	子どもと家庭のアセスメント 指導促進事業について	相談員(1) センター長
6 月 12 日 28 日	精神保健福祉基礎 研修	医学知識	相談員(1)
4 月 6 日	杜の郷職員研修	「愛着とトラウマケア」	相談員(4)
7 月 5 日	自殺対策研修	喪失体験	相談員(1)
7 月 5 日	市社協研修	ネット依存の理解と支援	相談員(3)
7 月 19 日	全国児家セン実務 者研修	児童家庭支援におけるソーシャル ワークについて	センター長(1)
9 月 26 日	里親支援研修	児童相談所における里親への 委託と支援	相談員(1)
9 月 27 日	社会的養育地位支援 ネットワーク設立記 念フォーラム	児童育成支援拠点事業につ いて	センター長(1)
10 月 15 日	神奈川県施設心理 士会研修	アタッチメントについて	心理士(1)
11 月 20 日	児童虐待対応専門 研修	児童虐待の理解	相談員(1)
12 月 3 日	泉区役所・性教 育研修	「0 歳からのこどもの人生 を豊かに育む教育」	心理士(1)

2月7日	県施設心理士会 研修	性虐待を受けた子どもへの かかわり方、性教育	心理士(1)
奇数月	児家セン心理勉強 会	事例検討・施設見学	心理士(1)

【内部研修】

4月	ロールプレイ	印象に残ったロールプレイ	全職員(7)
5月	不登校支援	青少年相談センターの取り組み	全職員(7)
6月	行政との連携	児相・区との連携の取り方	全職員(7)
7月	自殺対策	喪失体験に寄り添う	全職員(7)
9月	受験制度について	放課後デイについて学ぶ	全職員(7)
10月	ごっこ遊び	ごっこ遊びの発達側面	全職員(7)
11月	強迫傾向について	強迫的行為を繰り返す児童	全職員(7)
12月	里親支援	乳児院での経験から	全職員(7)
1月	自立援助ホーム	自立援助ホームの理解と実際	全職員(7)
2月	体験格差	困窮世帯と体験格差	全職員(7)
3月	パーマネント支援	杜の郷退所後支援の実際	全職員(7)
5月～3月 (全9回)	糸口探しの会	西部児相エリア職員による事 例検討(毎月)	西部児相エリア 児家セン職員
10月11,18 日	杜チャイルド園見 学実習	保育園での体験実習	心理士(1)
4月～3月	心理SV	コンサルテーション	心理士・相談員

ふれあい塾

【外部研修】

実施月	研修テーマ	研修内容	参加対象職種 (人数)
8月	事業理解	寄り添い型事業マニュアル理 解	全職員(1)
10月	ヤングケアラー理 解	ヤングケアラーに関する基礎 知識	全職員(2)
11月	性教育理解	小中学生への性教育に関する 基礎知識	全職員(2)
12月	児童虐待理解	児童虐待の基礎知識	全職員(2)
1月	事例検討会	寄り添い型生活支援事業の支 援について理解を深める	全職員(1)

くるみ学園児童

【内部研修】管理棟 2 階ホール等

実施月	研修テーマ	研修内容	参加対象職種 (人数)
通年 4 回	障害理解研修	自閉症の学習スタイル等	児指員等 (19)
通年 4 回	コンサルテーション	(障害理解研修と同日開催)	児指員等 (19)
通年 2 回	子ども理解研修	社会的養護児の行動特性等	児指員等 (19)
通年 2 回	権利擁護研修	ものの見方、自分を知る	児指員等 (19)

【派遣研修】

実施月	研修テーマ	研修内容	参加対象職種 (人数)
5 月	強行養成研修	基礎	児指員等 (1)
6 月	強行養成研修	実践	児指員等 (2)
8 月	児発管研修	補足	児指員等 (1)
8 月	CVPPP 研修	包括的暴力防止プログラム	児指員等 (2)
9 月	強行養成研修	実践	児指員等 (2)
9 月	SV 基礎技術研修	スーパーバイズの方法等	支援主査 (1)
10 月	児発管研修	実践	副主任 (1)
10 月	組織を守るための 記録の書き方研修	記録の書き方	児指員等 (1)
10 月	管理職のためのメンタルヘルス研修	管理職として理解すべき職員・職場のメンタルヘルス	主任 (1)
1 月	援助職のための心の 守り方研修	職員のセルフケア	児指員等 (1)
2 月	上級救命講習会	応急手当の方法	児指員等 (2)

ばらいと・えき

実施月	研修テーマ	研修内容	参加対象職種 (人数)
5 月	全体研修 (人権研修)	講師：社会福祉法人職員【よい支援・関わりについて】	全職員 (30 名)
8 月	全体研修 (子どもの心の発達理解)	講師：子どもの虹情報研修センター【トラウマとアタッチメント】	全職員 (33 名)

11 月	ケース検討①	インシデントプロセス法を用いたケース検討	全職員(26 名)
4・9・10・ 1・3 月	スーパービジョン	外部研修 派遣	心理士(1 名)
6・8・9・ 1・3 月	新人研修(支援員の基礎知識)	【リスクマネジメント】【知的障害】【アセスメント・支援計画とまとめ】【発達障害】【福祉の歴史的変遷】	1 年目職員(4 名)
7～2 月	中堅職員研修	外部研修 派遣	中堅職員(18 名)
6・7・10 月	リーダー研修	アドバイザー:元大学講師【ケース検討】	リーダー職員(17 名)

かさまの杜保育園

実施月	研修テーマ	研修内容	参加対象職種 (人数)
4 月	シェアリングネイチャー研修 (ネイチャーガイド講師)	シェアリングネイチャー。自然を楽しみ、遊び、自然から学ぶ。	保育士 (20)
5 月	KYT 研修	危険予知トレーニング	保育士 (20)
5 月	教育玩具学校	発達に応じたおもちゃを知る。	保育士 (3)
5 月	リスクマネジメント研修	事故防止対応	保育士 (27)
6 月	指導要録・保育要録	子ども理解を深める記録の書き方について	保育士 (27)
6 月	こどもの人権研修	子ども権利条約・児童福祉法からの子どもの人権について	保育士 (2)
6 月	自然体験研修	五感を使った保育実践を学ぶ。	保育士 (4)
6 月	救急救命法研修	心肺蘇生方 誤飲時の対応	保育士 (27)
7 月・9 月・ 11 月	保育環境セミナー	子どもの育ち、発達を学ぶ	保育士 (12)
7 月	食物アレルギー対応マニュアル研修	食物アレルギー対応マニュアルを学ぶ (リスクマネジメント)	保育士 (4) 栄養士 (1)
7 月	危険生物研修	身近な危険生物と、緊急時の対応	保育士 (27)
8 月・12 月・3 月	保育ファシリテーション研修	保育に必要なコミュニケーション、傾聴技術を知る。	保育士 (20)

8月	不適切保育防止研修	不適切が起こる原因とは？こどもの人権について考える。	保育士（30）
9月	感染症対策研修	感染症対策・予防対策を知る。	保育士（20） 栄養士（1）
9月	保育の実践研修	クラス毎のグループワーク。今の子どもの姿とこれからの保育について	保育士（27）
9月	保育の実践振り返り	グループワーク。保育の実践の振り返り	保育士（27）
9月	人権研修（大学准教授講師）	不適切保育とは何か？実践を振り返りながら環境構成から見直し	保育士（27）
9・11・1・3月	ネイチャー研修（ネイチャーガイド講師）	園庭自然観察。ネイチャーゲーム実践。	保育士（27）
6・9・11月	幼保小接続期研修会	子どもの姿と環境構成を通じてカリキュラムを考える。	保育士（5）
11月	栄区主任研修	主任同士の連携を図る	保育士（1）
1月	栄区虐待防止研修	暴力コミュニケーションの撲滅	保育士（4）
2月	性暴力に対する防止研修	性暴力を防止するための指針について学ぶ	保育士（10）
2月	アンガーマネジメント	アンガーマネジメントについて学ぶ	保育士（27）
2月	法人理念研修	法人の理念を学ぶ	保育士（27）

ビーンズ杜保育園

実施月	研修テーマ	研修内容	参加職種
4月	幼保連携研修	第1回 幼保小接続期研修会	保育士（2）
5月	幼保連携研修	保育要録・指導要録研修 記録の取り方	保育士（1）
6月	臨床心理士研修	心のしくみと保護者対応	保育士（1）
6月	人権研修	子どもの人権研修「よりよく子どもとかわるために」	保育士（1）
7月	救命救急研修	AED 救命講習、心肺蘇生	保育士（29）
7月	アレルギー研修	食物アレルギー対応マニュアル研修	保育士（1）

7 月	障害理解	要配慮児研修（中級編）	保育士（1）
8 月	臨床心理士研修	心のしくみと保護者対応	保育士（1）
8 月	保育者支援	指導計画の作成方法	保育士（1）
8 月	障害理解	自閉スペクトラム症の理解	保育士（1）
9 月	保育者支援	乳児保育研修	保育士（1）
9 月	保育者支援	子育て支援研修	保育士（1）
9 月	障害理解	要配慮児研修（中級編）	保育士（1）
9 月	保健衛生研修	口腔疾患の予防と口腔機能育成に関する研修	保育士（1）
10 月	保育者支援	保育園の多文化共生	保育士（1）
10 月	保健衛生研修	感染症予防と対策	保育士（1）
10 月	幼保小接続期研修	NICU 命の授業	保育士（1）
10 月	人権研修	虐待防止研修	保育士（1）
12 月	保育者支援	わらべうたあそび	保育士（1）
12 月	臨床心理士研修	心のしくみと保護者対応	保育士（1）
12 月	防災研修	防災研修	保育士（1）
2 月	障害理解	要配慮児研修（見学編）	保育士（1）
2 月	保育者支援	リスクマネジメント研修	保育士（1）

杜ちやいんど園

【外部研修】

実施月	研修テーマ	研修内容	参加対象職種 (人数)
6 月	ル・プリ昇任者研	管理者の心得	主任（1）

	修		
7 月	ル・プリ新規採用 フォローアップ 研修	各職場の状況等の共有	保育士（１）
	ル・プリ栄養士研 修	各職場の近況報告	栄養士（１）
9 月	食育アレルギー 対応	家庭と園での食事と栄養につ いての共有の仕方、アレルギー 対応	主任（１）
10 月	食育研修	0 才児から噛ませるための食 事介助、好き嫌い対応のヒン ト、熱中症や夏バテについて	栄養士（１）
11 月	乳児保育	発達検査の 6 つの項目につい て	保育士（２）
	保護者支援・子育 て支援	各園の状況、工夫を発表し合 い学ぶ	保育者（１）
	保健衛生・安全対 策	散歩リュックの中身、人数確 認のまずさ、アイデアとして トランシーバーの利用など	保育士（１）
	施設栄養管理研 修会	色が広げるおいしい食環境、 色彩の心理効果・視覚効果	栄養士（１）
	職域別見守る保 育セミナー	見守る保育について、それぞ れの職域の視点から学ぶ。	事務職員（１）
12 月	乳児保育	長時間保育などの問題点等現 状を知る	保育士（１）
1 月	障がい児保育	気になる子へのかかわり方	保育士（１）
	ル・プリ フォロ ーアップ研修	懇親を兼ねた会	保育士（１）
	食育アレルギー 対応	アレルギーが起きたときの表 情など実際の様子から学ぶ	保育士（１）
	造形を盛り上げ る会	実践の共有から学ぶ	主任（１）
2 月	障がい児保育	園と保護者のニーズのズレに ついて、保護者とのコミュニ ケーション、信頼の築き方	保育士（１）
11、2、3	保育実践ゼミナ	事例検討からシナリオ型への	保育士（２）

月	ール	書き方を学び、検討の仕方を学ぶ	
2 月	防災研修	センターにて実際に起震車等の体験をし学ぶ	保育士（2）

【他園見学研修】

実施月	見学先	研修内容	参加対象職種 (人数)
9 月	多夢の森保育園、 彩の森保育園、キ ッズアートラボ	環境の作り方、保育者の意図 等	保育士（3）
12 月	寺子屋まんぼう	環境設定と保育者の意図、考 え方	保育士（3）

【内部研修】

実施月	研修テーマ	研修内容	参加対象職種 (人数)
毎月	わらべうた研修	各クラスにてその年齢に合わせた遊びへのアドバイスを受ける	保育士（18）
4 月～10 月	園で大切にしている保育（クレドに向けて）	それぞれが大事にしている保育、子どもの姿を子どものエピソードから話し合う	保育士（6）
7 月	心肺蘇生法	AEDの使い方、協力の仕方等実地で学ぶ	保育士（24）
	人権研修	保育における子どもの人権を再確認し、人権意識の向上をはかる	常勤保育士 （18）
10, 11, 1, 3 月	感覚統合を学ぶ	子どもの姿から発達の躓きの意味、保育の手立て等	常勤保育士 （18）
11, 12, 1, 2, 3 月	園におけるキャリアアップをつくる	エリクソンの発達段階から人の成長について学び、そこから園で目指す保育者像を探る	保育士（6）
11 月	火災・通報訓練	消火器の使い方、火災報知器の使い方、通報の仕方	保育士（24）
2 月	子どもへの性暴力防止の視点から保育を考える	子どもの人権についてチェックリストを使ってセルフチェックし、そこから学ぶ	リーダー職員 （28）

3 月	わらべうた研修	一年を振り返り 4 月当初の姿と現在の姿を比べ、各年齢の発達の確認をする	常勤保育士 (18)
-----	---------	--------------------------------------	---------------

【障害者福祉部門】

実施月	研修テーマ	研修内容	参加対象職種（人数）
8 月	感染症対策研修	指導者養成研修	光センター（1 名）
4 月 6 月 12 月		基本の感染症対応 嘔吐物処理について 感染症 BCP について	SELP・杜拠点(全職員)
4 月		吐物処理研修	青葉メゾン（新規採用者）
11 月			あおぞら（全職員）
2 月		感染症の基礎知識と予防策	ワーク中川（全職員）
4 月		虐待防止研修	講義
5 月	講義		あおぞら（全職員）
7 月	虐待防止・虐待事例周知		SELP・杜（全職員）
7 月/11 月	アンガーマネジメント		青葉メゾン（21 名/14 名）
7 月/8 月	虐待防止と身体拘束について		SELP・杜拠点(全職員)
7 月/9 月	虐待防止と身体拘束について		あおぞら（全職員）
9 月	アンガーマネジメント		ワーク中川（全職員）
	虐待防止研修		GH 空（1 名）
	虐待防止と意思決定支援		杜の地域生活支援室（1 名）
	アンガーマネジメント研修		くるみの森 ひかりの園 くるみ学園成人・ホルツハウゼ
10 月			実際のケースを使用し、そ

		それぞれの立場に立ってどのように考えたか、体験する	員)
		虐待防止サポート研修 (2回) 横浜市障害者虐待防止研修 (2名)	光センター (全職員)
		虐待防止サポート研修 (7/27、10/28、10/28)	くるみ学園成人
		虐待防止研修	くるみホーム
		ベースアップ研修 (隔月実施年6回)	くるみの森・ひかりの園
10月/1月		外部講師による虐待防止・権利擁護研修	くるみの森 (全職員)
11月		虐待防止研修	ワーク中川 (全職員)
12月		講義・グループワーク	ワーク中川 (全職員)
12月		身体拘束等の適正化	青葉メゾン (全員)
1月		スピーチロック抑止に向けて	ワーク中川 (1名)
2月		スピーチロック抑止に向けて	ワーク中川 (全職員)
2月		障害者虐待防止マネージャー研修会 虐待防止、ロールプレイ	光センター (1名) GH 空 (全職員)
4月	個人情報保護研修	個人情報取り扱い等	あおぞら (相談員) すてっぷ (全職員) 杜の地域生活支援室 (自アシ職員) 青葉メゾン (相談員)
9月			ワーク中川 (全職員)
4月	強度行動障害支援	基礎研修	青葉メゾン (4名)

6 月	者養成研修		青葉メゾン（1 名）
8 月			SELP・杜（1 名）
10 月			ワーク中川（1 名）
11 月			ワーク中川（1 名） 青葉メゾン（1 名）
3 月			SELP・杜（1 名） 青葉メゾン（3 名）
7 月		実践研修	GH 空（1 名） SELP・杜（1 名）
2 月		フォローアップ研修	すてっぷ（1 名） くるみの森
5 月	権利擁護研修	人権研修（講義）	ぽらいと（全職員）
7 月		意思決定支援の進展にむけて	青葉メゾン（全職員）
		成年後見制度申立てのタイミング	GH 空（2 名）
10 月		講義	ひかりの園（全職員）
11 月		外部講師	あおぞら（全職員）
1 月		講義	すてっぷ（全職員）
1 月		神奈川県障害者虐待防止・権利擁護研修	光センター（1 名）
2 月		講義	すてっぷ（全職員）
通年		講義	ホルツ・成人（中堅職員）
6 月	サービス管理責任者養成研修	基礎研修	道・えき（1 名）
7 月		基礎研修	光センター（1 名） ひかりの園
9 月		基礎研修	青葉メゾ（1 名）
1 月		基礎研修	ワーク中川（1 名）
		基礎研修	あおおら（1 名）
7 月		補足研修	青葉メゾン（1 名）
		補足研修	光センター（3 名）
1 月		補足研修	道・えき（1 名）
10 月		実践研修	SELP・杜（1 名）

			光センター くるみの森
7 月		更新研修	青葉メゾ (1 名)
7 月		更新研修	道・えき (1 名)
7 月		更新研修	光センター (1 名)
8 月		更新研修	ワーク中川 (1 名)
9 月		更新研修	道・えき (1 名)
7 月	サービス管理責任 者等資質向上研修	アセスメントの視点	光センター (1 名)
9 月	相談支援従事者養 成研修	相談支援研修 I	青葉メゾン (2 名)
9 月～1 月		相談支援専門員初任者研修	青葉メゾン (2 名)
7 月～1 月		相談支援専門員初任者研修	あおぞら (2 名)
9 月		相談新従事者現任研修	青葉メゾン (1 名)
5 月	防災研修	自然災害時の事業継続計画 を周知するとともにグルー プワークを通じて実際の動 きの確認と共有をする	あおぞら (全職員)
10 月		大規模災害発生後の対応と グループワーク	GH 空 (全職員)
11 月		災害時 BCP について	SELP・杜拠点 (全職 員)
2 月		BCP について	ワーク中川 (全職 員)
7 月	救命救急研修	AED・救命法	すてっぷ (全職員)
1 月			あおぞら (全職員)
1 月			GH 空 (全職員)
2 月	法人合同実践報告 会	実践報告	全職員
6 月	支援技術向上研修	アンガーマネジメント テーマ別小グループ研修	GH 空 (1 名) GH 空 (全職員)
9 月		ダウン症成人期の理解	GH 空 (3 名)
10 月		高齢期知的障害の理解	GH 空 (1 名)
11 月		こころのサポーター研修	GH 空 (2 名)
3 月		アンガーマネジメント	GH 空 (1 名)
7 月			すてっぷ (3 名)

11 月			すてっぷ（2 名） あおぞら
6 月		障害支援の基礎	SELP・杜（2 名）
11 月		知的・発達障害者の認知症 支援(外部)	SELP・杜（2 名）
年 2 回 8・9 月/ 10・11 月		基礎講義 ・ 障害の定義 ・ 知的障害とは	SELP・杜(新入職員 含む 12 名)
年 12 回		e ラーニング	すてっぷ（全職員） あおぞら（全職員）
6 月/8 月		口腔ケア研修	くるみの森（全職 員）
			ホルツ・成人（全職 員）
9 月/1 月		口腔ケア研修	あおぞら（全職員）
10 月		自閉症の方へのかかわり	ワーク中川（1 名）
12 月		自閉症の方へのかかわり	ワーク中川（全職 員）
12 月		神奈川県障害福祉職員実践 報告会	ワーク中川（1 名）
1 月		ハラスメント研修	ワーク中川（1 名）
1 月		ハラスメント研修	ワーク中川（全職 員）
2 月		メンタルヘルス講習	ワーク中川（1 名）
3 月		現場で役立つロジカルコミ ュニケーション	ワーク中川（1 名）
年 11 回		事例検討会	あおぞら（全職員）
年 12 回		事例検討会	すてっぷ（全職員）
年 12 回		事例検討会	ひかりの園（全職 員）
年 12 回		事例検討会	ワーク中川（全職 員）
年 1 回		事例検討会	ぽらいと（全職員）
		日本点字図書館主催 点字関連機器体験、展示会	光センター（1 名）

		障害福祉に関する制度・サービス入門	光センター（1名）
年6回		動作法	ホルツ・成人（全職員）
9月		ストレスマネジメント	すてっぷ（全職員）
1月／3月		自閉症等理解の研修 外部講師2名 岸川学氏	あおぞら（全職員）
年6回	支援技術向上研修 （新人；1～2年目）	基礎知識の習得	青葉メゾン（16名）
年5回	支援技術向上研修 （新人；1年目）	基礎知識の習得	ぽらいと（4名）
年8回		仕事の基本（5月）、権利擁護（6月）、ロールプレイ（7月）、虐待（9月）、施設処遇（10月）、施設職員の役割（12月）、トラウマ（2月）、障害とは・施設処遇②（3月）	ホルツハウゼ・くるみ学園成人・くるみホーム・ひかりの園・くるみの森
年10回	新人向け1～3年目研修	基礎知識の習得	あおぞら（4名）
年5回	支援技術向上研修 （中堅；3～6年目）	ストレングスアセスメント、事例検討	青葉メゾン（23名）
年5回	支援技術向上研修 （中堅）	対人援助基礎研修、面接技術	ぽらいと（18名）
		日中職員向け 5/24 6/28 7/26 10/25 生活棟職員向け 11/13 1/15 2/12	くるみ学園成人・ホルツハウゼ
	支援技術向上研修 （中堅/2～5年目）	コア研修 自閉症について（6月、7月、8月）、ダウン症児の心理・発達（10月）、知的障害児者の心理（11月）、支援者のセルフケアについて（12月）、障害児者のための制度（1月、2月）	
年10回	支援技術向上研修 （中堅；2～3年目）		ひかりの園 ホルツ・成人

	以上)		
9 月	支援技術向上研修 (相談)	アウトリーチ支援事業研修	青葉メゾン (自ア シ1名)
11 月		心のサポーター養成研修	杜の地域生活支援 室 (自アシ職員)
11 月		自アシ勉強会(整理収納)	杜の地域生活支援 室 (自アシ職員)
11 月		ひきこもり支援研修	青葉メゾン (自ア シ1名)
1 月		アウトリーチ支援研修	杜の地域生活支援 室 (自アシ職員)
2 月		自アシ勉強会(自アシなら ではのアセスメント)	杜の地域生活支援 室 (自アシ職員)
8 月/2 月	組織力向上	チームビルディング研修	青葉メゾン (全職 員)
5 月		プレゼンテーション研修	すてっぷ (全職員)
10 月		コミュニケーション・チー ムワークについて	ぼらいと (全職員)
年 6 回	リーダー研修	意思決定支援	青葉メゾン (14 名)
7 月		報酬改定勉強会	青葉メゾン(主任・ 主査)
年 3 回	リーダー研修	チームリーダーのための職 員育成研修	ぼらいと (17 名)
6 月	労務研修	労働法関係	主任以上
	強度行動障害支援 者養成研修(基礎・ 実践)		くるみの森
	社会福祉士実習指 導者		横浜光センター
	福祉職員キャリア パスキャリアパス 対応生涯研修課程		横浜光センター